

第4期三田市教育振興基本計画策定にかかる
アンケート調査
結果報告書

令和7年12月
三田市

目 次

I	アンケート調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査概要.....	1
3	回収状況.....	1
4	報告書の見方.....	1
II	市民アンケート調査結果.....	2
1	回答者の基本属性.....	2
2	児童生徒の教育や学習に関する取組について.....	4
3	家庭・地域で児童生徒を育てていくことについて.....	17
III	教職員アンケート調査結果.....	23
1	回答者の基本属性.....	23
2	教職員の職場環境について.....	25
3	教育や学習に関する取組について.....	29
4	I C T教育について.....	37
IV	小中学生アンケート調査結果.....	39

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、三田市の教育の振興に関して基本的な事項を定める「第4期三田市教育振興基本計画（計画期間：令和9年度～令和13年度の5年間）」を策定するにあたり、市民・教職員及び小中学生の教育に関する考えなどを把握するため、アンケート調査を実施するものです。

2 調査概要

項目	調査
調査対象者	・市内在住の18歳以上の方3,000名（うち児童生徒保護者2,000名） ・市立幼稚園・認定こども園、小学校、中学校、特別支援学校の教職員768名 ・市内小中学校の小学5年生児童、中学2年生生徒1,999名
調査期間	令和7年10月13日（月）～10月31日（金）
調査方法	・市民：郵送配布、郵送回収による郵送調査法及びWebによる回答 ・教職員：各学校を通じてweb回答の直接案内 ・児童生徒：各学校を通じてweb回答の直接案内

3 回収状況

項目	配布数	回収数	回収率
市民アンケート調査	3,000	1,417	47.2%
教職員アンケート調査	768	694	90.4%
児童生徒アンケート調査	1,999	1,727	86.4%

4 報告書の見方

◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。

◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。

◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

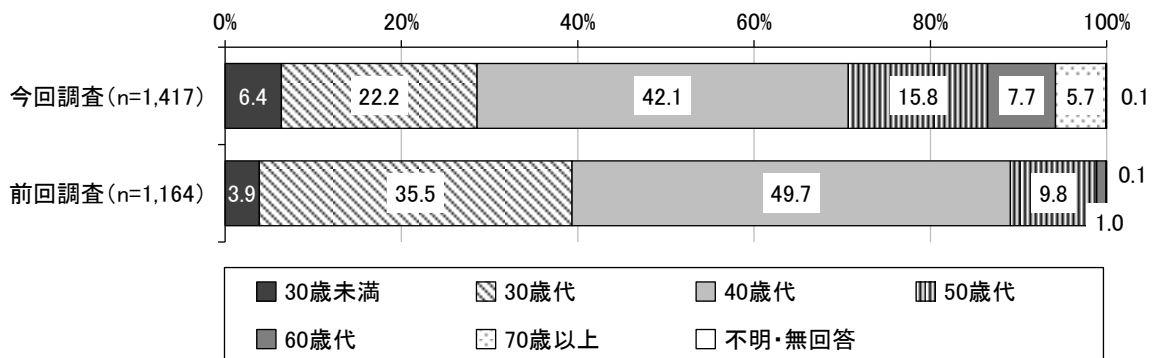
◇「前回調査」とは、第3期三田市教育振興基本の策定にあたり令和2年に実施したアンケート調査のことを指します。必要に応じて前回調査との比較を行っています。

II 市民アンケート調査結果

1 回答者の基本属性

問1 あなたの年齢を次の中から1つお選びください。(令和7年10月1日現在)

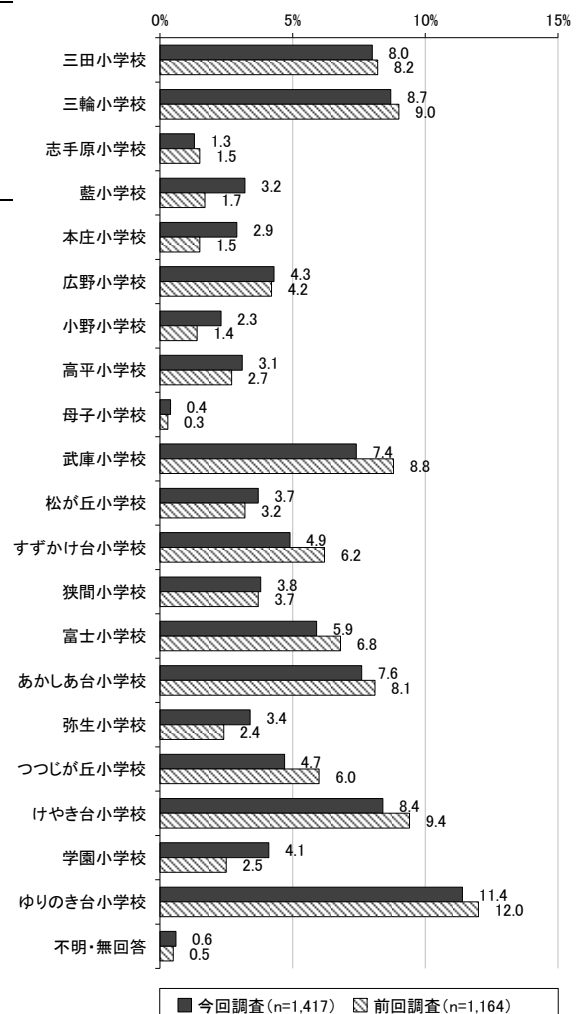
回答いただいた方の年齢は40歳代が42.1%と最も多く、次いで30歳代が22.2%であり、児童生徒の保護者のみを対象とした前回調査時と比較し、50歳代以上の回答が増加している。



※前回調査の「60歳代」は「60歳以上」

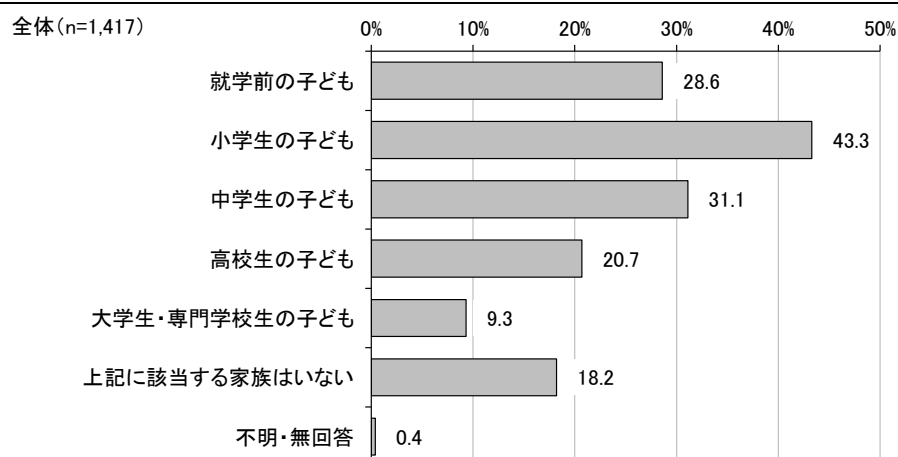
問2 お住まいの小学校区はどちらですか。(あてはまるもの1つ)

回答いただいた方のお住まいの小学校区の割合は、前回調査時と大きな変化はなく、「ゆりのき台小学校」が最も多く11.4%、次いで「三輪小学校」が8.7%となっている。



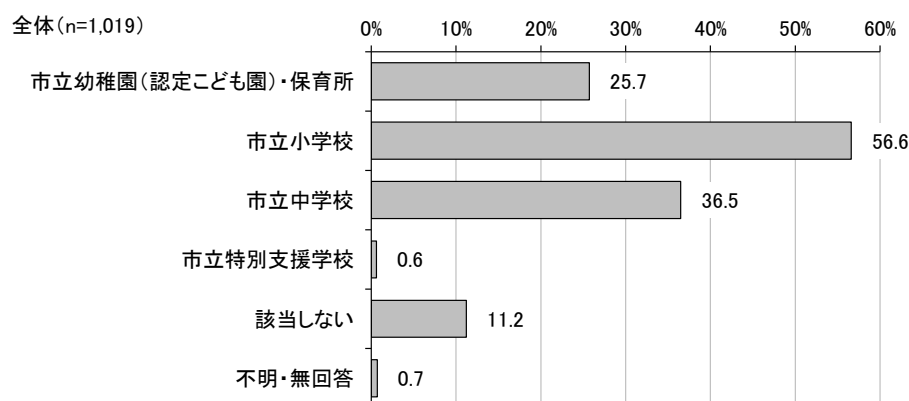
問3 あなたには、次の方がご家族におられますか。（あてはまるものすべて）

回答いただいた方のご家族は「小学生の子ども」が43.3%と最も多く、次いで「中学生の子ども」が31.1%となっている。



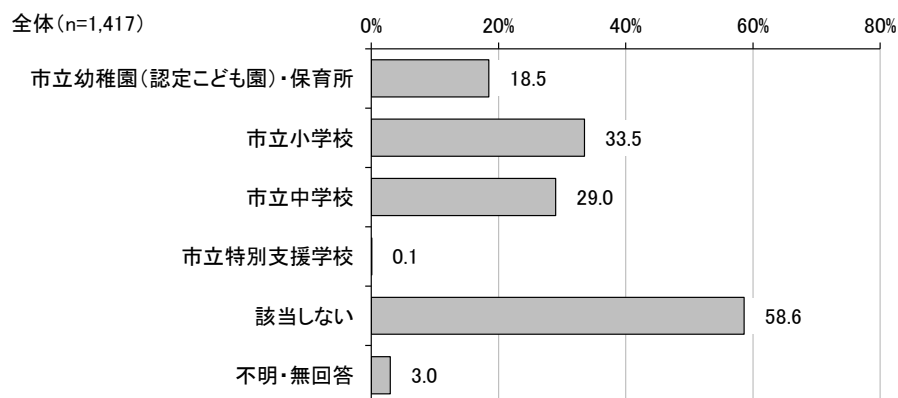
問3-1 あなたのご家族に以下の三田市立の学校等に在籍している方はおられますか。（あてはまるものすべて）

回答者ご家族の学校等への在籍状況として、「市立小学校」が56.5%と最も多く、次いで「市立中学校」が36.5%となっている。



問4 あなたは以下の三田市立の学校等を卒業されましたか。（あてはまるものすべて）

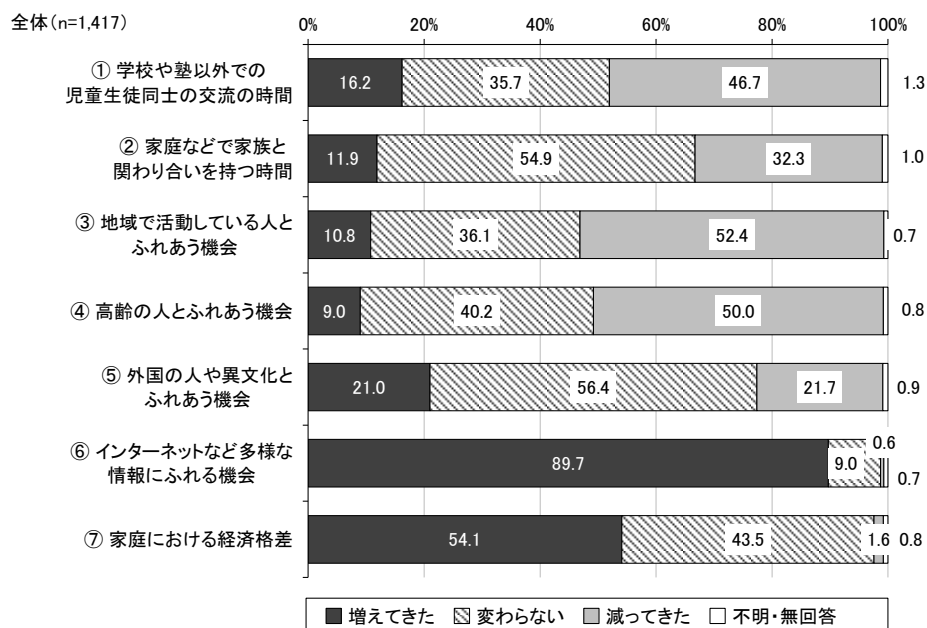
回答者の半数以上となる58.6%が三田市立の学校等を卒業しておらず、次いで「市立小学校」を卒業した回答者が33.5%となっている。



2 児童生徒の教育や学習に関する取組について

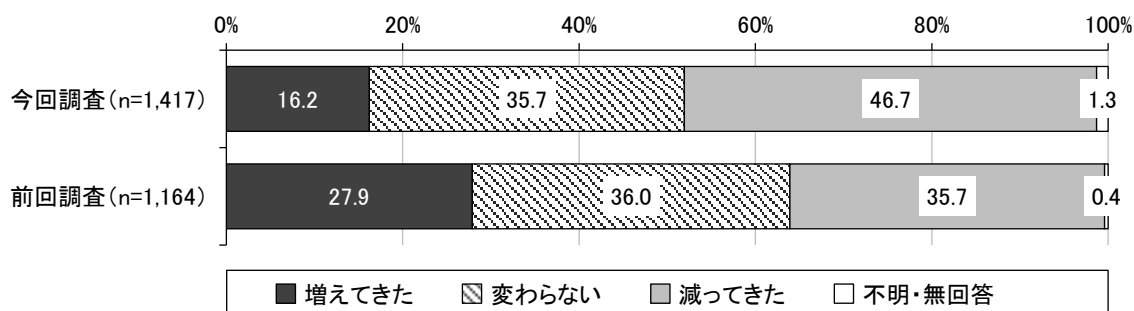
問5 児童生徒を取り巻く環境は、この数年、どのように変化してきたと思いますか。
(①～⑦ごとにあてはまるもの1つ)

「児童生徒同士の交流の時間」、「地域で活動している人とふれあう機会」など人とのふれあいや交流の時間が「減ってきた」と感じている回答者の割合が、「増えてきた」と感じている回答者の割合よりも多くなっていることから、地域の繋がりが希薄化していることが伺える。



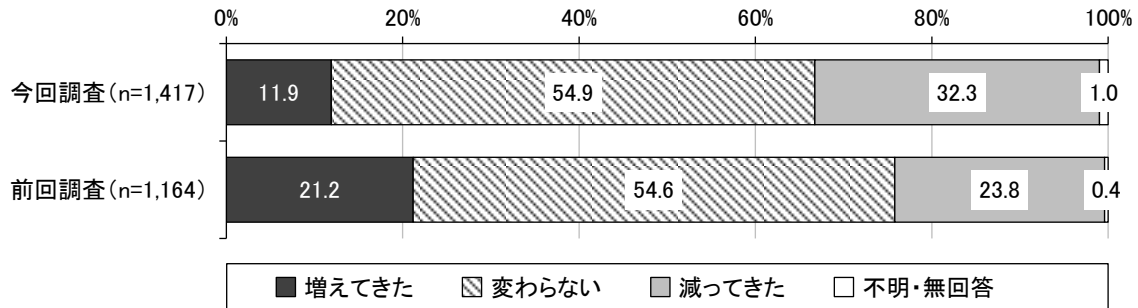
問5 ①学校や塾以外での児童生徒同士の交流の時間 (あてはまるもの1つ)

前回調査時と比較すると、学校や塾以外での児童生徒同士の交流の時間が「増えてきた」と感じている回答者が減っており、一方で「減ってきた」と感じている回答者が増えていることから、児童生徒同士の繋がりの希薄化が進んでいることが伺える。



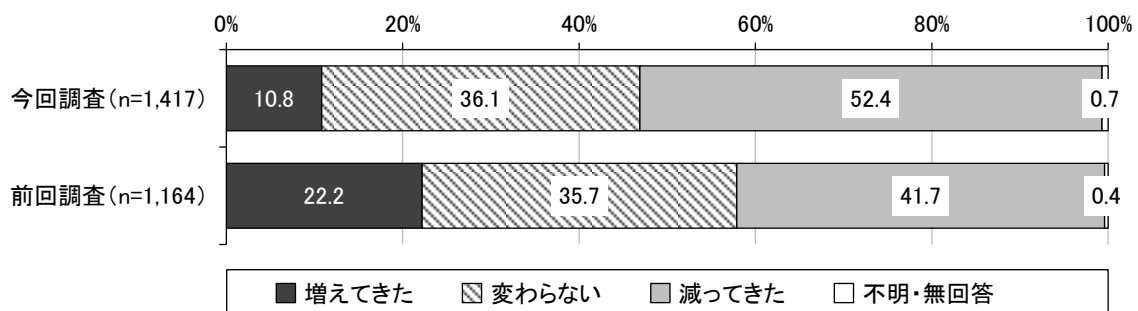
問5 ②家庭などで家族と関わり合いを持つ時間（あてはまるもの1つ）

前回調査時と比較すると、家族と関わり合いを持つ時間が「増えてきた」と感じている回答者が減少し、「減ってきた」と感じている回答者が増加しており、家族との時間が取りづらくなっていることが伺える。



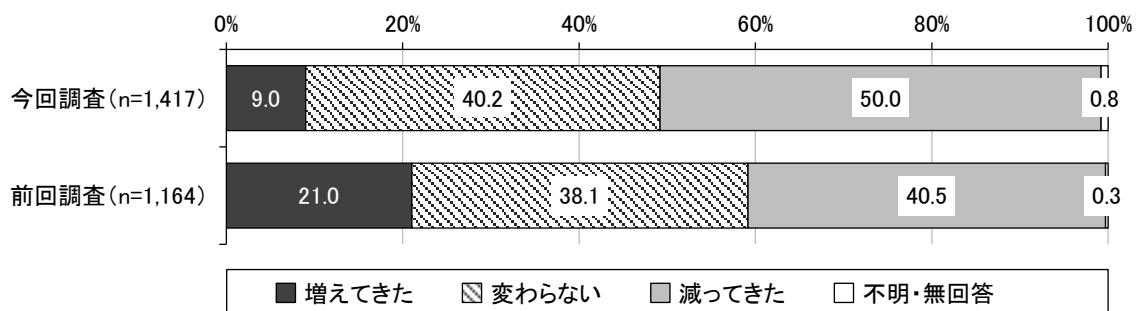
問5 ③地域で活動している人とふれあう機会（あてはまるもの1つ）

前回調査時と比較すると、地域で活動している人とふれあう機会が「増えてきた」と感じている回答者が減少し、「減ってきた」と感じている回答者が増加しており、地域との繋がりの希薄化が伺える。



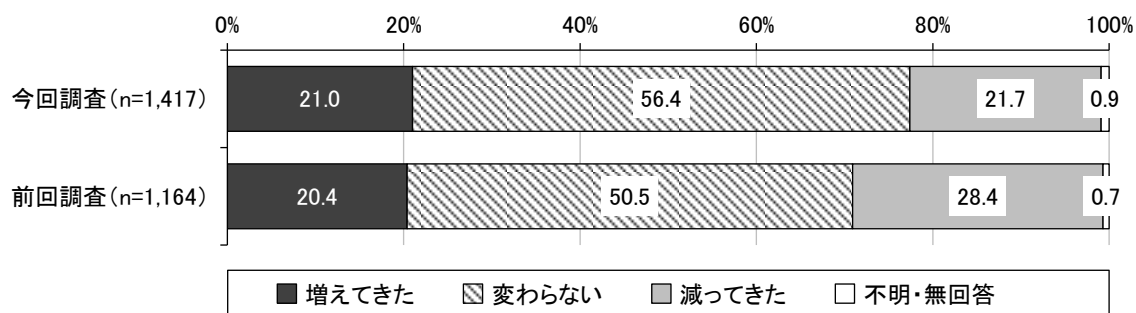
問5 ④高齢の人とふれあう機会（あてはまるもの1つ）

前回調査時と比較すると、高齢の人とふれあう機会が「増えてきた」と感じている回答者が減少し、「減ってきた」と感じている回答者が増加しており、高齢の人との繋がりも希薄化が進んでいることが伺える。



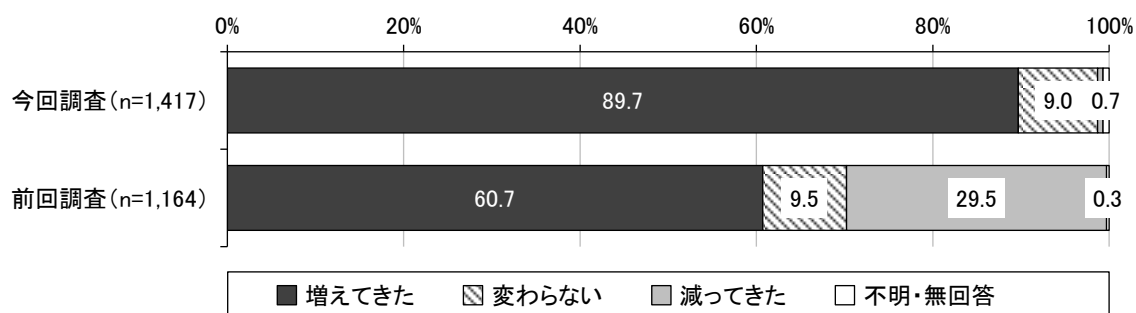
問5 ⑤外国の人や異文化とふれあう機会（あてはまるもの1つ）

前回調査時と比較すると、外国の人や異文化とふれあう機会が「減ってきた」と感じている回答者が減少しており、グローバル化に伴い交流の機会が増加していることが伺える。



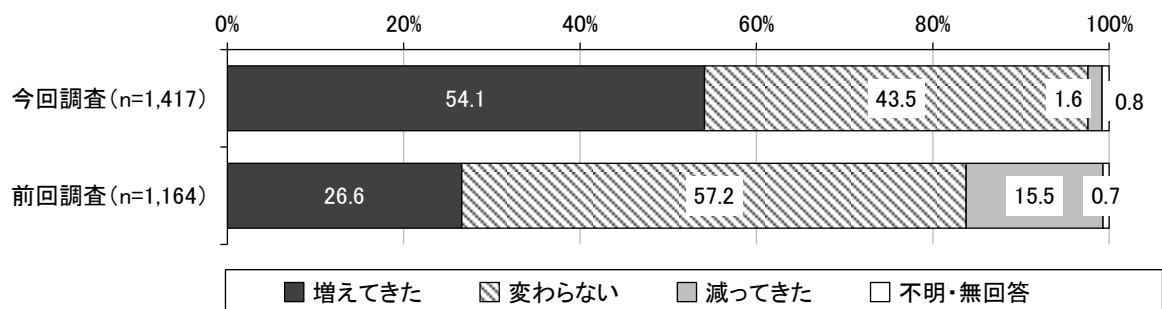
問5 ⑥インターネットなど多様な情報にふれる機会（あてはまるもの1つ）

前回調査時と比較すると、インターネットなど多様な情報にふれる機会が「増えてきた」と感じている回答者が増加しており、デジタル社会の浸透の影響が伺える。



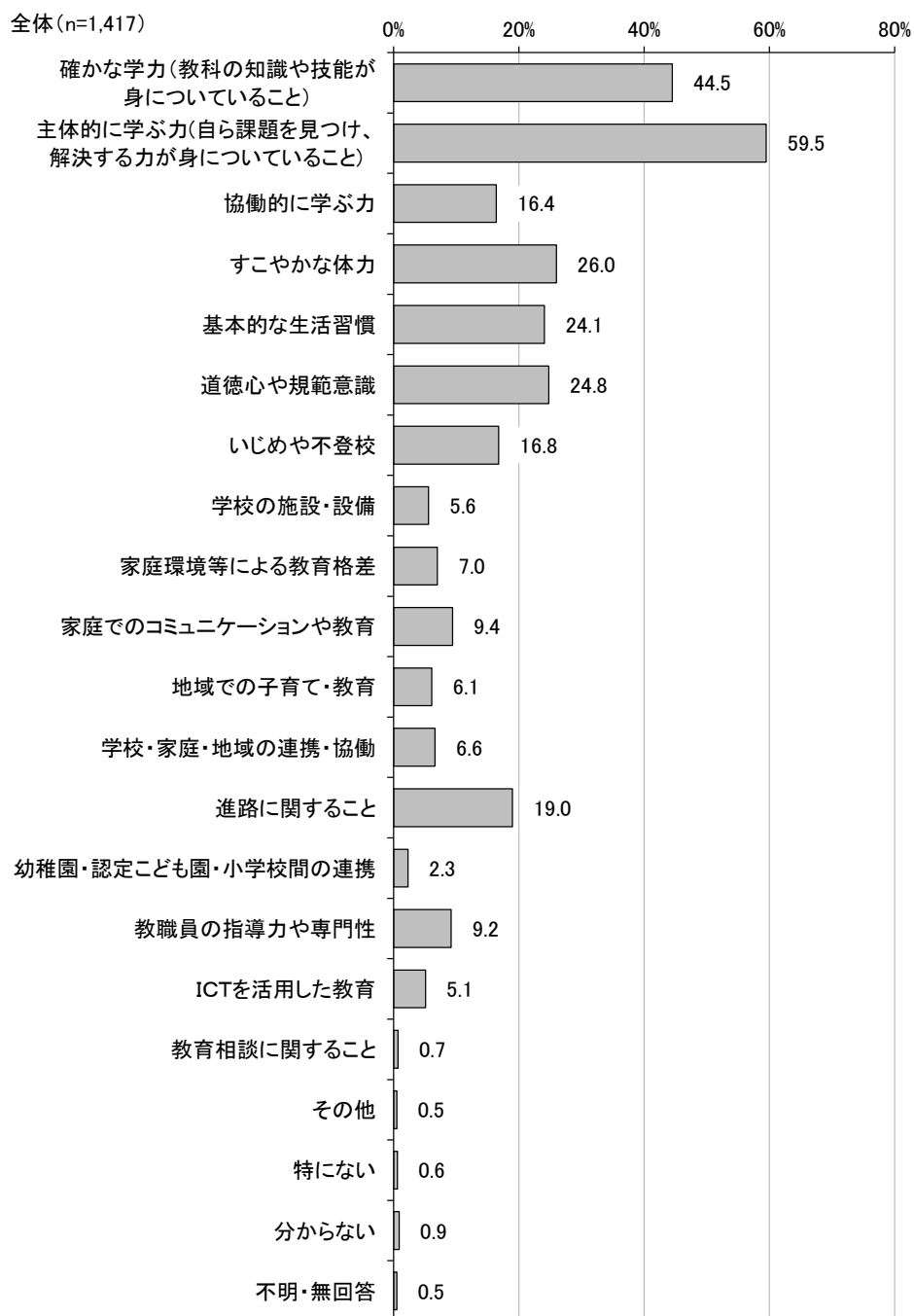
問5 ⑦家庭における経済格差（あてはまるもの1つ）

前回調査時と比較すると、家庭における経済格差が「増えてきた」と感じている回答者が増加し、「変わらない」「減ってきた」と感じている回答者が減少している。



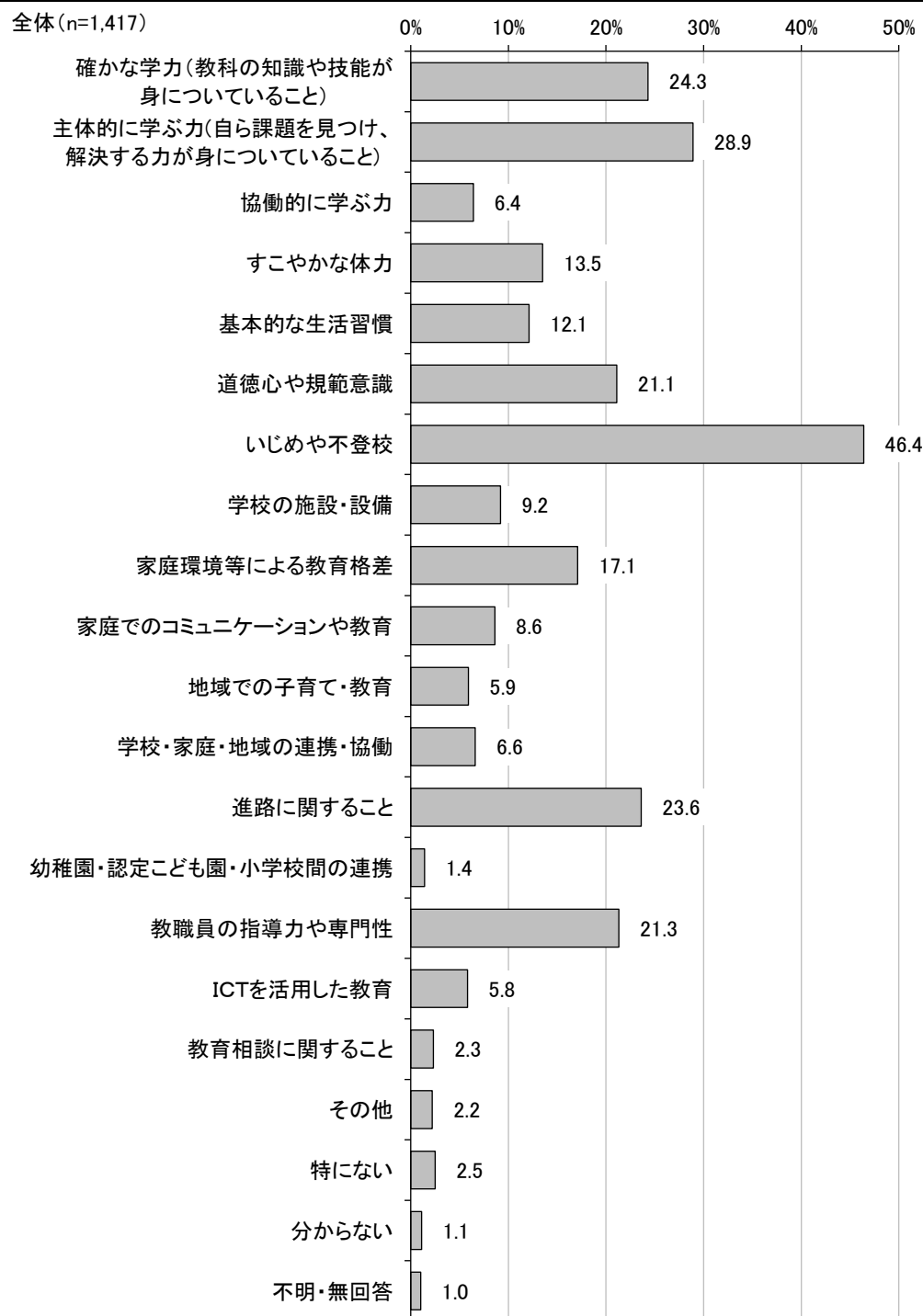
問6-1 あなたは、児童生徒の力や教育全般について、関心があることを選んでください。（あてはまるもの3つまで）

児童生徒の力や教育全般について関心のあることでは、「主体的に学ぶ力」が59.5%と最も多く、次いで「確かな学力」が44.5%となっており、生活や環境よりも学習に関する関心が高いことが伺える。



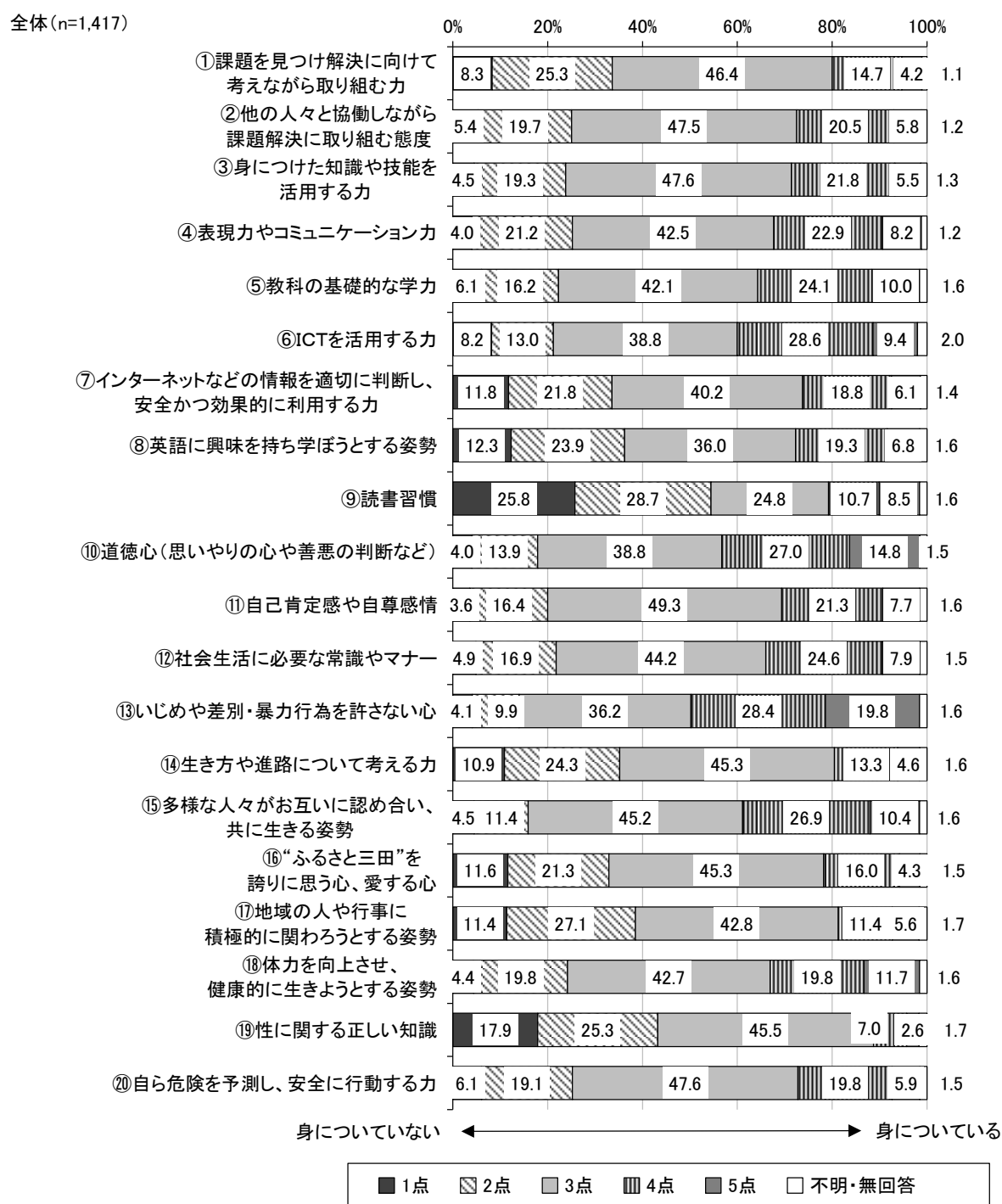
問6-2 あなたは、児童生徒の力や教育全般について、不安に感じていることを選んでください。（あてはまるもの3つまで）

「いじめや不登校」に関する不安が、次点の「主体的に学ぶ力」と比較して約20ポイント多く、大きな不安となっていることが伺える。また「確かな学力」や「主体的に学ぶ力」、「進路に関すること」「教職員の指導力や専門性」など学力や学ぶ力に関することが不安として多いことが伺える。



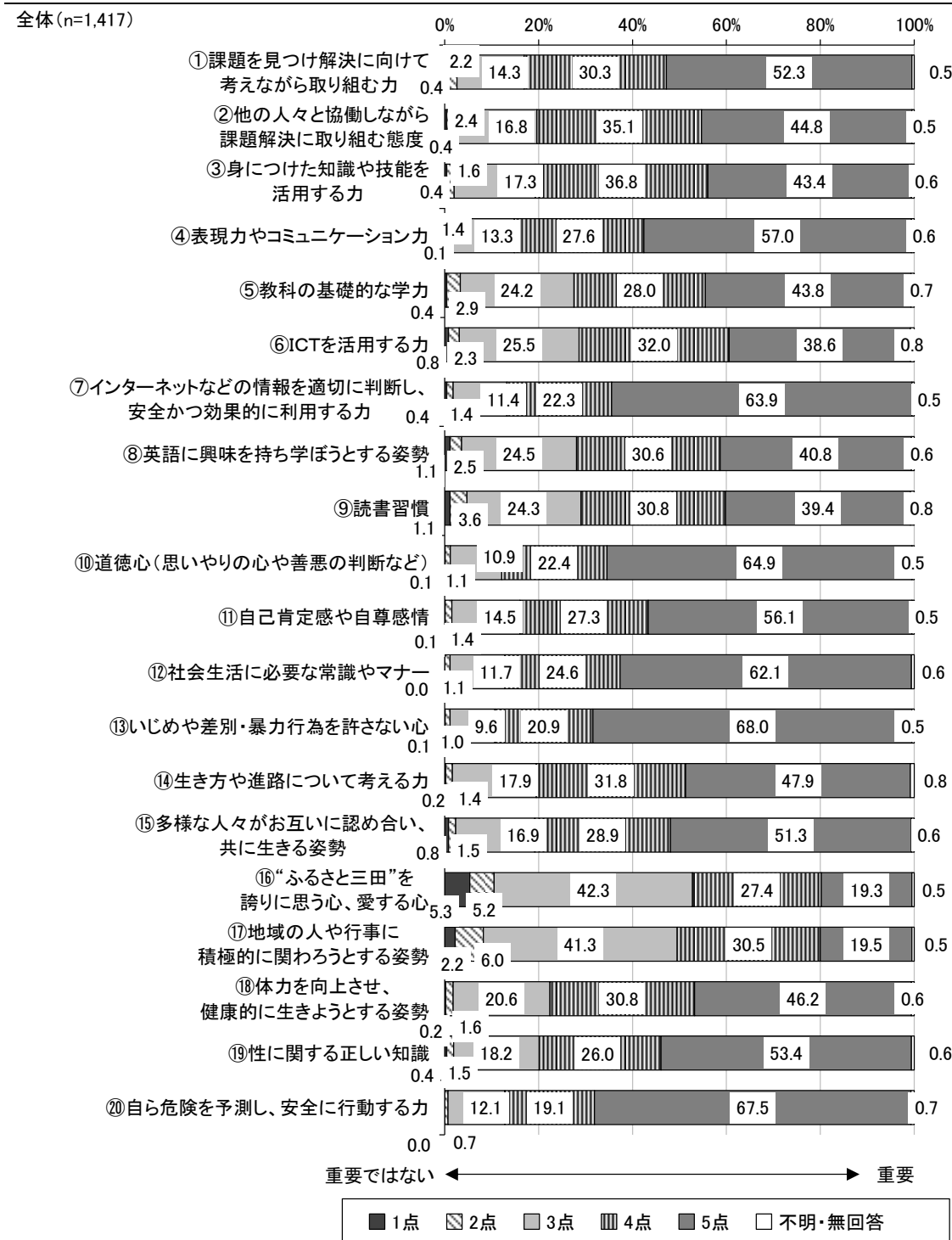
問7-1 教育を通じて、児童生徒には「現在」①～⑳の能力や態度が身についていると思いますか。（身につけている」を5点、「身につけていない」を1点として①～⑳ごとにあてはまるもの1つ）

児童生徒の「身につけている」能力や態度として、「いじめや差別・暴力行為を許さない心」が最も多く、次いで「道徳心」が多くなっている。一方で、「読書習慣」が「身につけていない」と感じている回答者が最も多く、次いで「性に関する正しい知識」が多くなっており、課題となっていることが伺える。



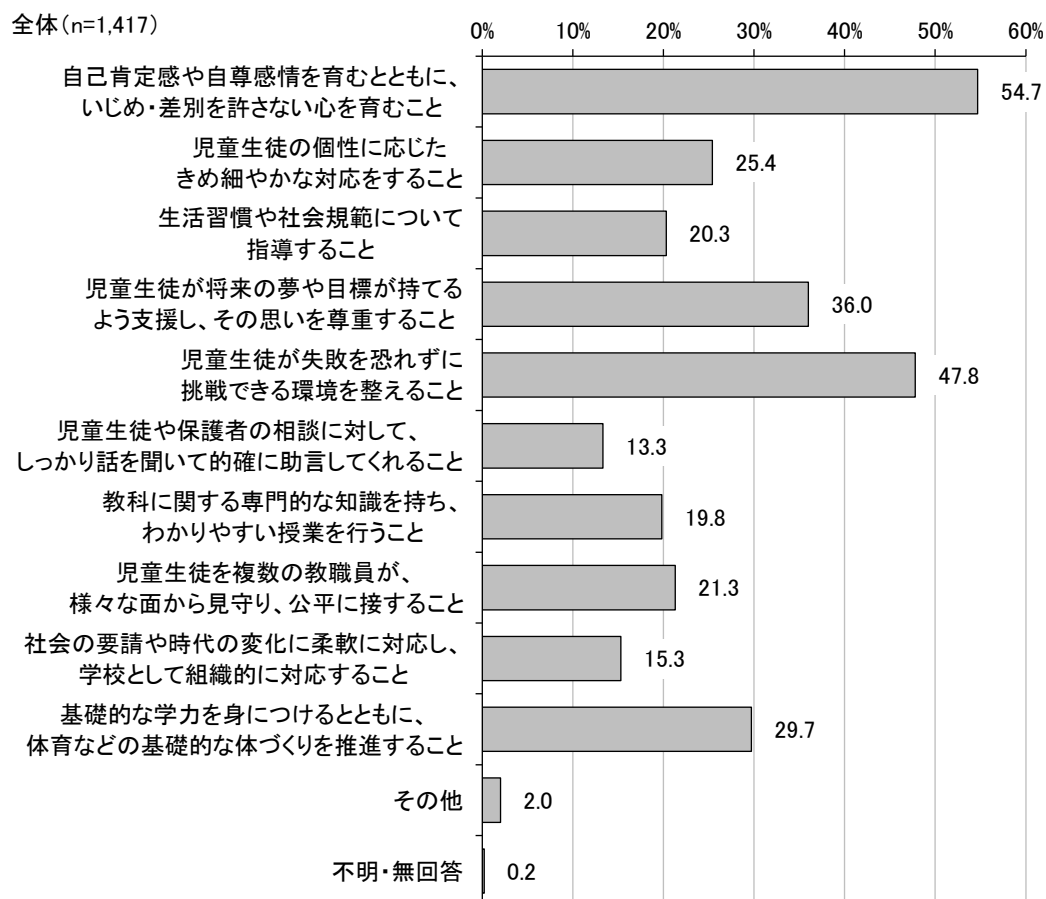
問7-2 「今後の重要度」について、あなたの考えに最も近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。（「重要」を5点、「重要でない」を1点として①～⑳ごとにあてはまるもの1つ）

「今後の重要度」が高い項目について、「いじめや差別・暴力行為を許さない心」が最も多く、次いで「自ら危険を予測し、安全に行動する力」が多くなっている。一方で、「“ふるさと三田”を誇りに思う心、愛する心」が重要でないと感じている回答者が最も多くなっており、シビックプライドの醸成が課題となっていることが伺える。



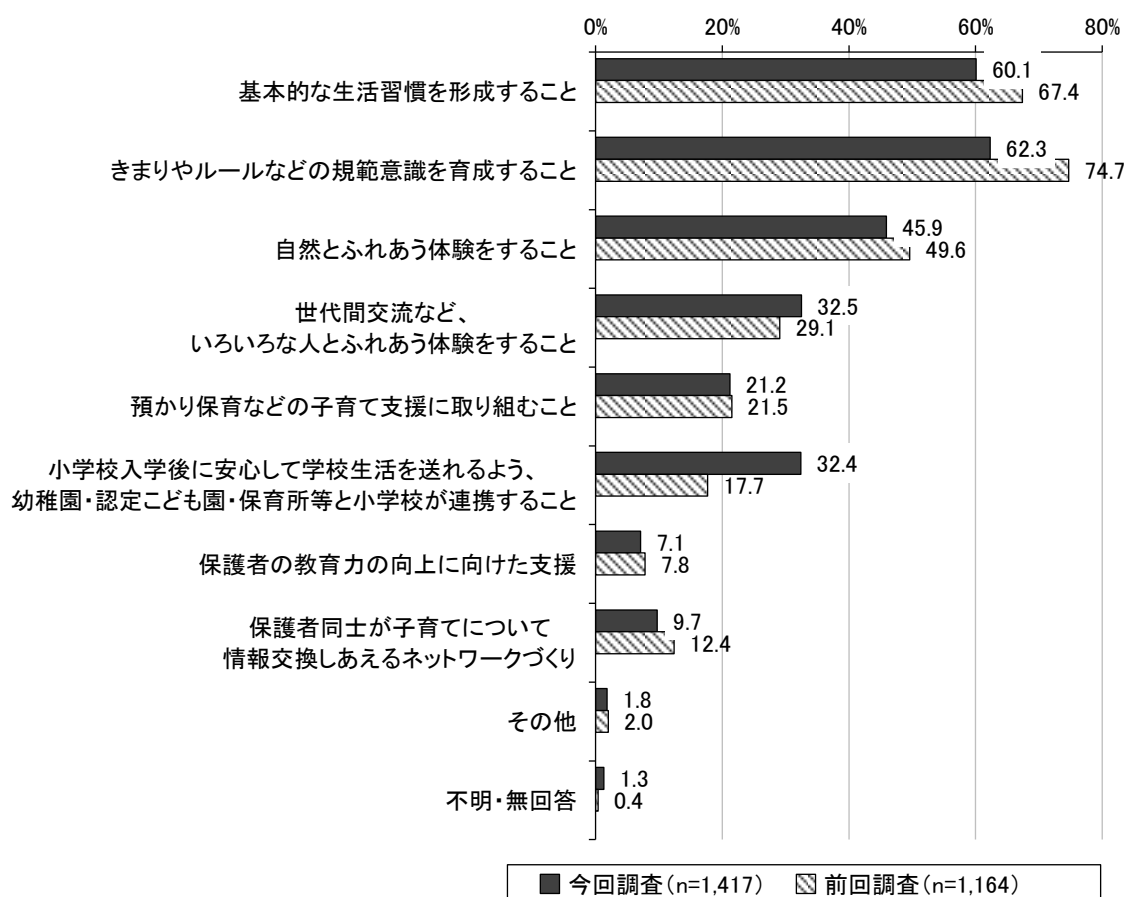
問8 あなたは学校に対してどのようなことを望みますか。(あてはまるもの3つまで)

学校に対して望むこととして、「自己肯定感や自尊感情を育むとともに、いじめ・差別を許さない心を育むこと」が54.7%と最も多く、次いで「児童生徒が失敗を恐れずに挑戦できる環境を整えること」が47.8%、「児童生徒が将来の夢や目標が持てるよう支援し、その思いを尊重すること」が36.0%と多くなっており、児童生徒の心の育成や自己実現を支える環境づくりを必要としていることが伺える。



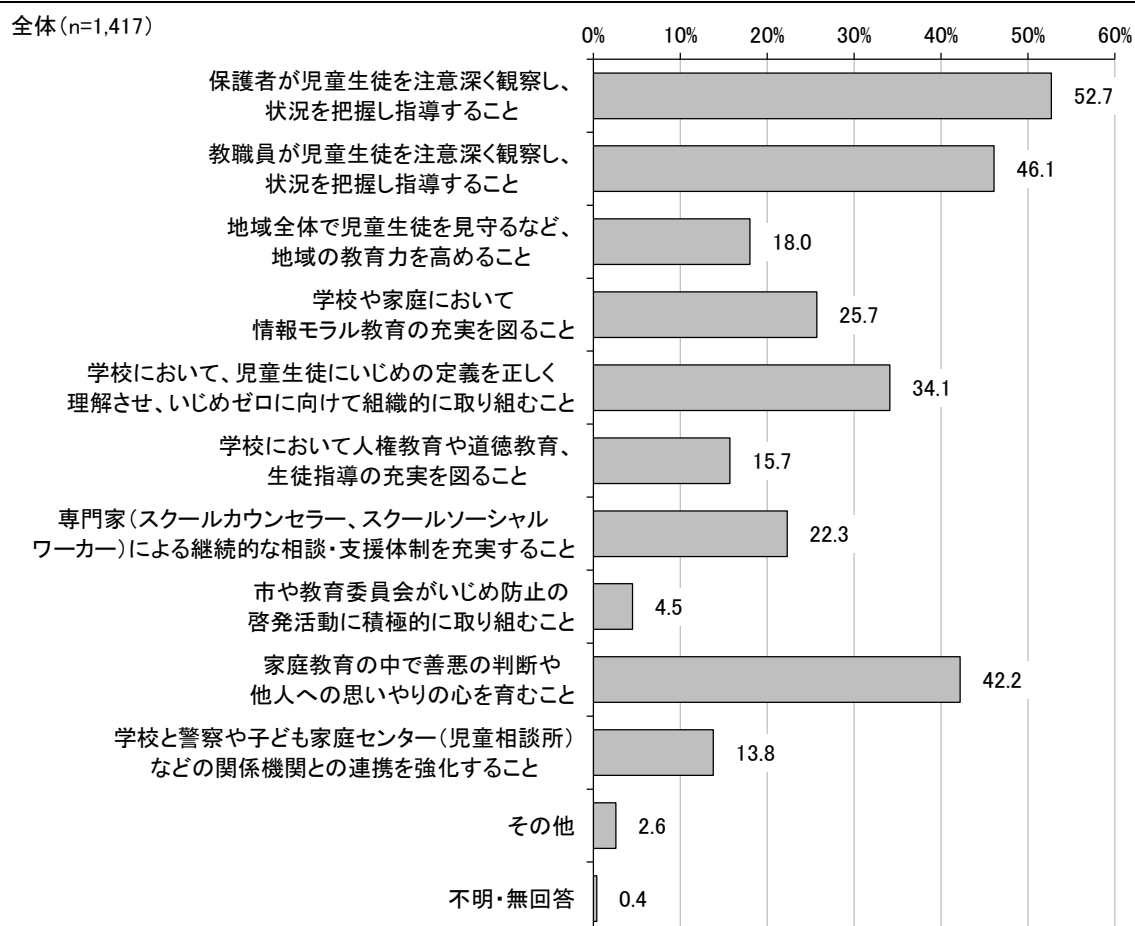
問9 あなたは就学前教育施設に対してどのようなことを望みますか。(あてはまるもの3つまで)

就学前教育施設に対して望むこととして、前回調査同様に「きまりやルールなどの規範意識を育成すること」が62.3%と最も多く、次いで「基本的な生活習慣を形成すること」が60.1%と多くなっているが、どちらもその割合は減少している。一方で、「小学校入学後に安心して学校生活を送れるよう、幼稚園・認定こども園・保育所等と小学校が連携すること」が32.4%と前回調査と比べて14.7ポイントと最も増加しており、安心して小学校に就学できることを必要とする人が増加していることが伺える。



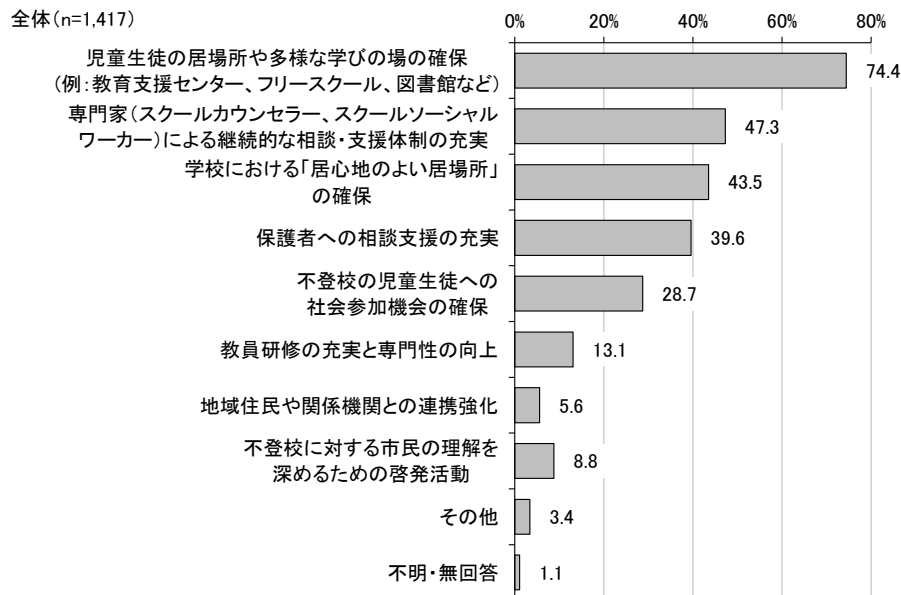
問10 あなたは、いじめや問題行動などを防止するためにはどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの3つまで）

いじめや問題行動を防止するために必要なこととして、「保護者が児童生徒を注意深く観察し、状況を把握し指導すること」が52.7%と最も多く、次いで「教職員が児童生徒を注意深く観察し、状況を把握し指導すること」が46.1%、「家庭教育の中で善悪の判断や他人への思いやりの心を育むこと」が42.2%と多くなっており、児童生徒への注意深い観察や状況把握、指導が課題と感じていることが伺える。



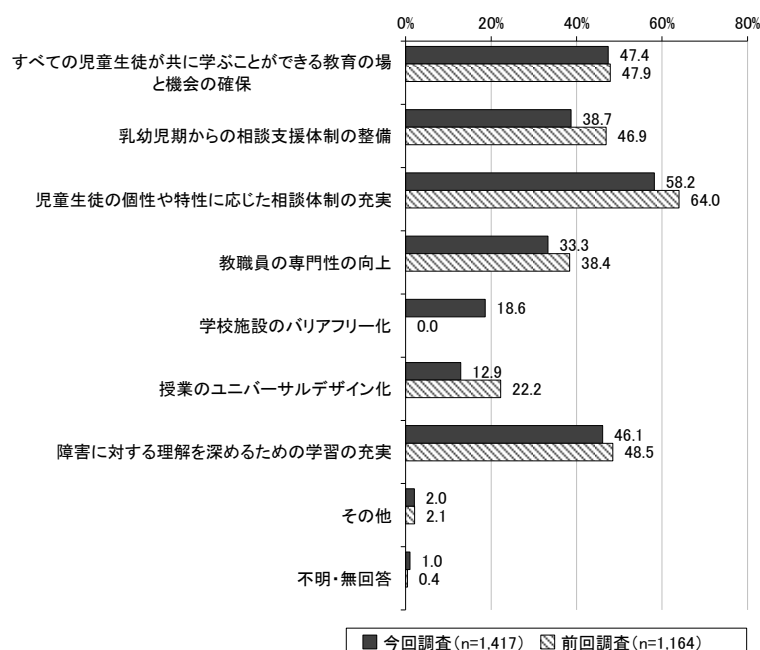
問 11 あなたは、不登校に対応するために、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの3つまで）

不登校を防止するために必要なこととして、「児童生徒の居場所や多様な学びの場の確保」が74.4%と最も多く、次いで「専門家による継続的な相談・支援体制の充実」が47.3%、「学校における「居心地のよい居場所」の確保」が43.5%と多くなっており、児童生徒の居場所や気軽に相談できる支援が必要とされていることが伺える。



問 12 あなたは、特別支援教育の充実のためにどのような取組が必要だと思いますか。（あてはまるもの3つまで）

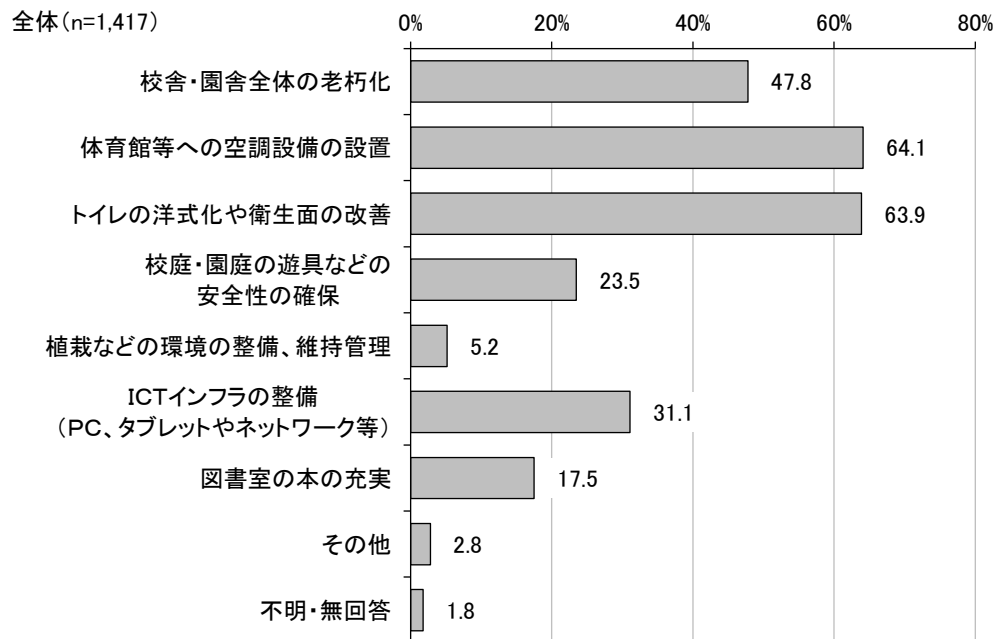
特別支援教育の充実のために必要なこととして、前回調査と比較して割合は減っているものの「児童生徒の個性や特性に応じた相談体制の充実」が58.2%と最も多い。また、新しい選択肢である「学校施設のバリアフリー化」が18.6%となっている。



※「学校施設のバリアフリー化」は今回調査より追加

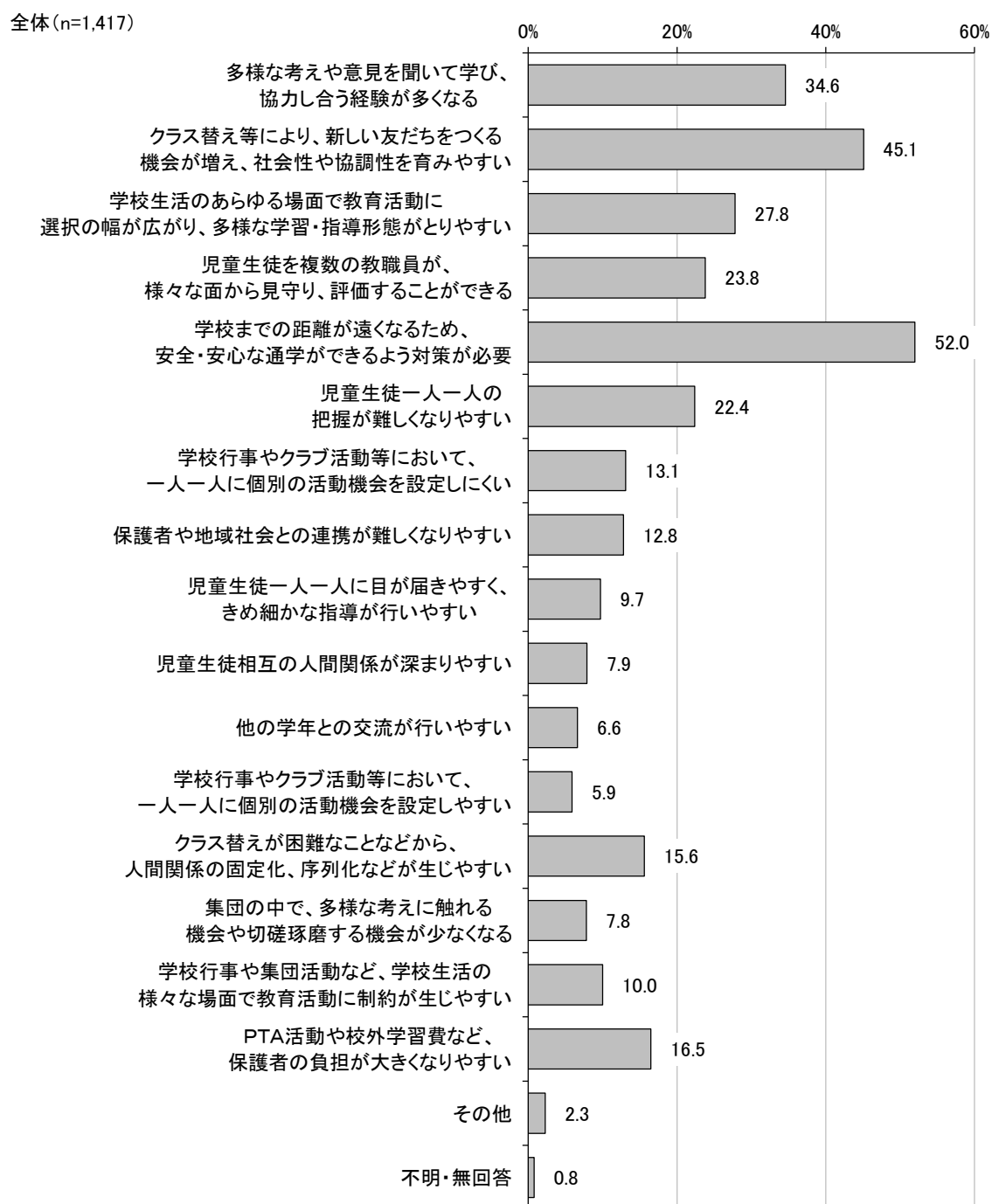
問 13 あなたは、学校の施設や設備で改善すべきだと思うことはありますか。（あてはまるもの3つまで）

学校の施設や設備で改善すべき点として、「体育館等への空調設備の設置」と「トイレの洋式化や衛生面の改善」が約64%とほとんど同じ割合で最も多く、次いで「校舎・園舎全体の老朽化」が47.8%と多くなっており、古い設備の改修・改善が求められていることが伺える。



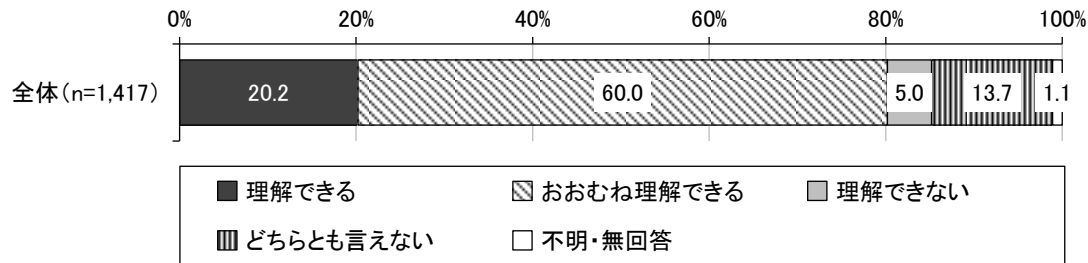
問 14 本市では、学校の小規模化に伴う諸課題を解消し、教育環境や学習環境を充実していくため、三田市立学校のあり方に関する基本方針に基づき学校再編（統合）の取組を進めていくこととしています。この取組について期待することや、心配なことなど、あなたのお考えに近いものを選んでください。（あてはまるものすべて）

学校再編に関する関心として、「通学距離が長くなるため、安全・安心な通学ができるよう対策が必要」が52.0%と最も多く、次いで「クラス替え等により、新しい友だちをつくる機会が増え、社会性や協調性を育みやすい」が45.1%と多くなっており、多様な人との交流の機会に期待が高まる一方で、安全・安心な学校運営の維持が懸念されていることが伺える。



問 14-1 あなたは、学校再編の取組についてどのように思われますか。（あてはまるもの1つ）

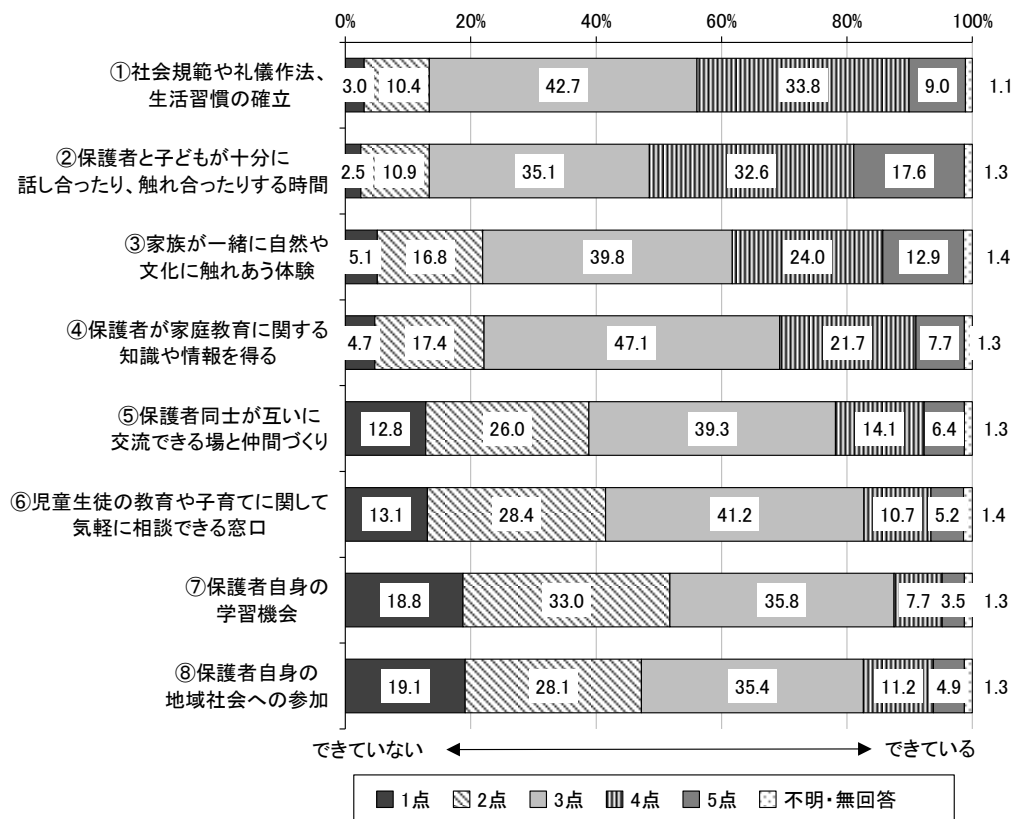
学校再編の取組について、「理解できる」「おおむね理解できる」とする回答が合計で 80.2% と多くなっており、多くの方に理解いただけていることが伺える。



3 家庭・地域で児童生徒を育てていくことについて

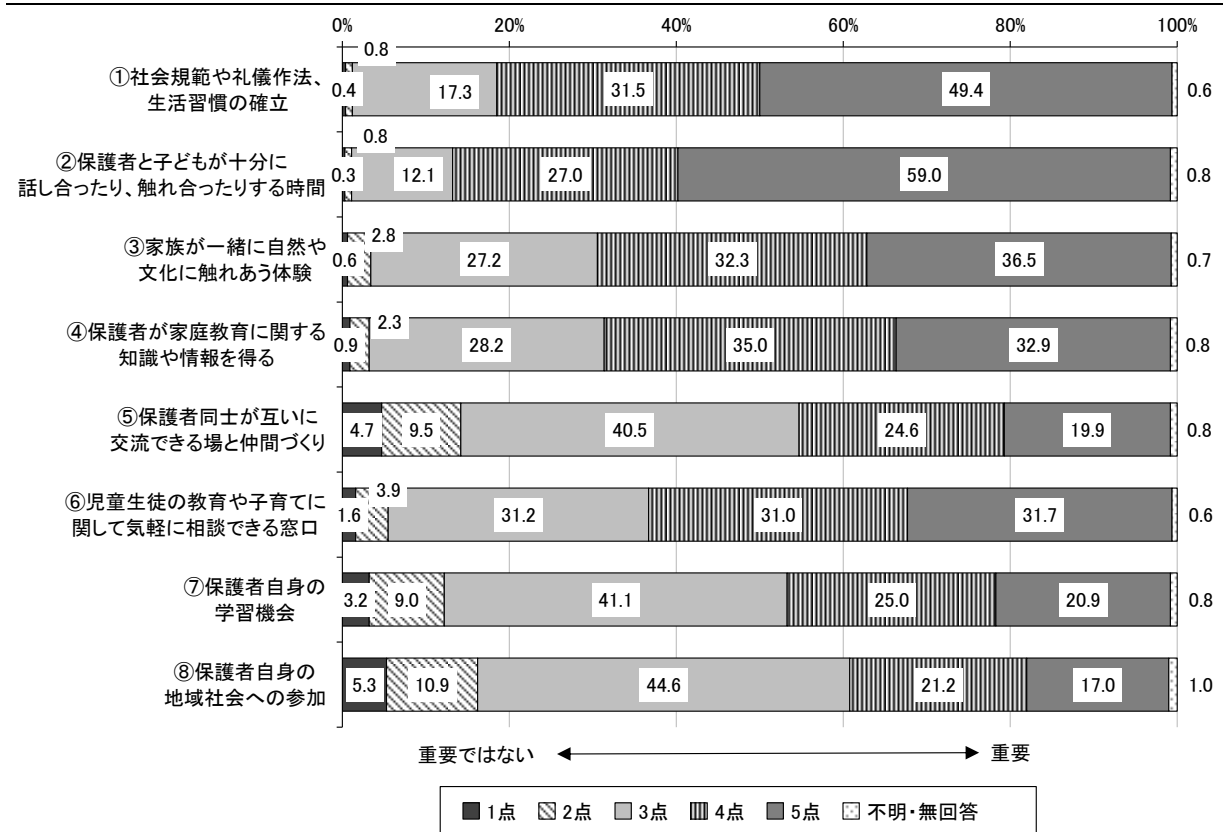
問 15-1 家庭での教育について「現在」①～⑧ができていますか。（「できている」を5点、「できてない」を1点として①～⑧それぞれあてはまるもの1つ）

家庭での教育について「できている」ことは、「保護者と子どもが十分に話し合ったり、触れ合ったりする時間」が最も多く、次いで「家族と一緒に自然や文化に触れあう体験」「社会規範や礼儀作法、生活習慣の確立」が多くなっている。一方で、「保護者自身の学習機会」「保護者自身の地域社会への参加」が少なく、課題となっていることが伺える。



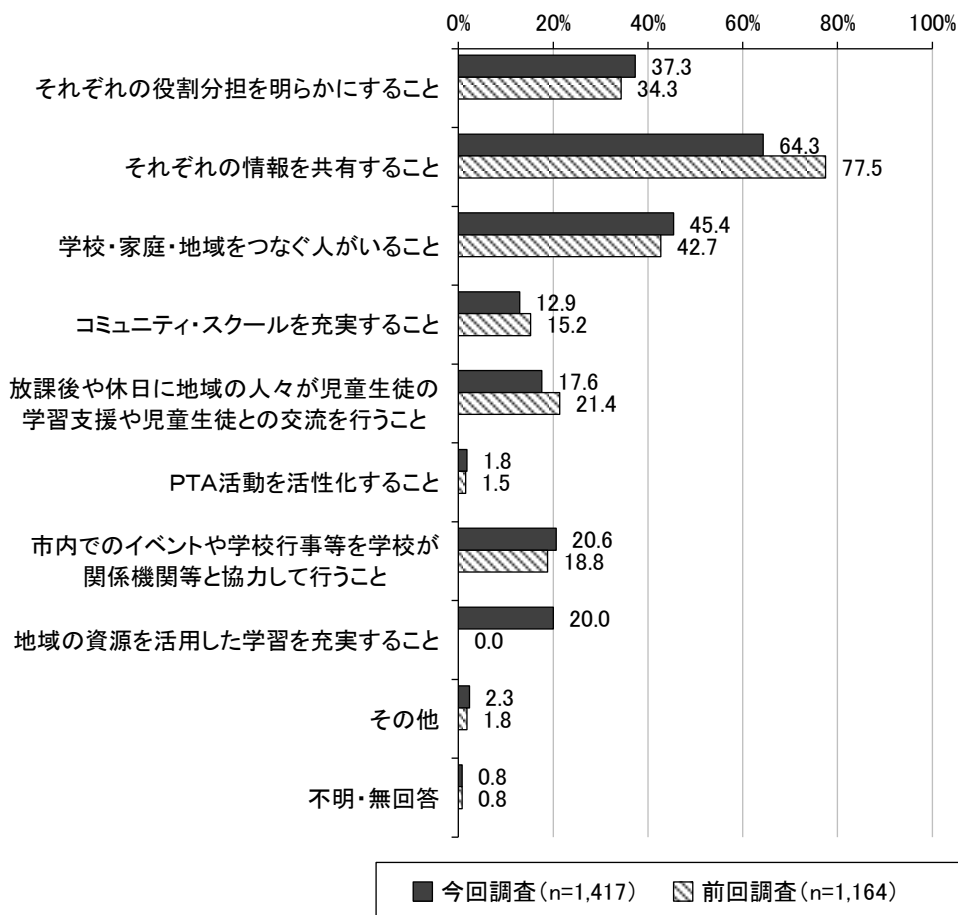
問 15-2 「今後の重要度」について、それぞれ選んでください。（「重要」を5点、「重要でない」を1点として①～⑧それぞれあてはまるもの1つ）

家庭での教育における今後の重要度について、「保護者と子どもが十分に話し合ったり、触れ合ったりする時間」が重要だと感じている回答者が最も多く、次いで「社会規範や礼儀作法、生活習慣の確立」が多くなっている。



問 16 学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深め、子育てしていくことが求められますが、その上で、大切なことは何だと思えますか。（あてはまるもの3つまで）

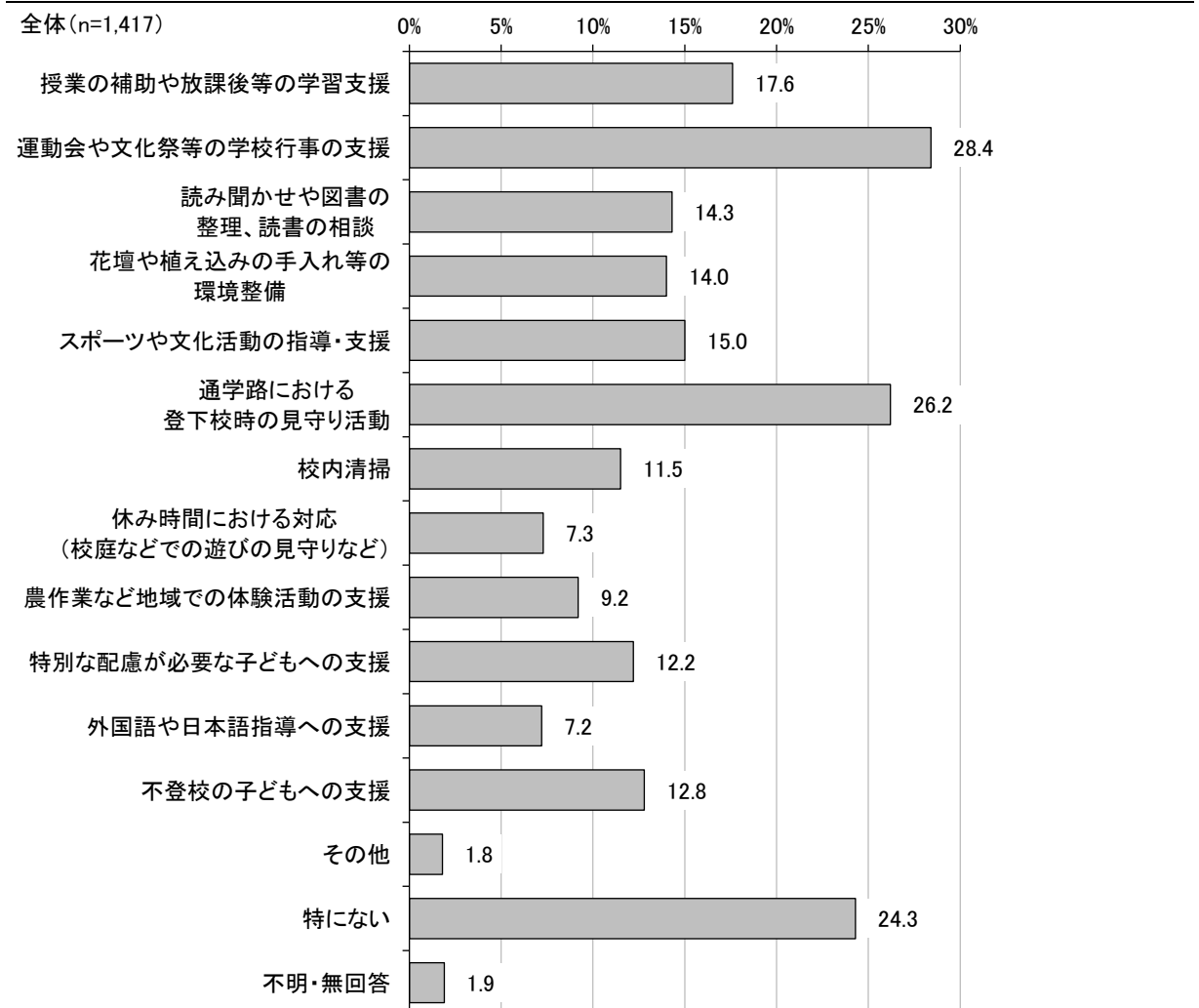
学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深め、子育てをしていく上で大切なこととして、「それぞれの情報を共有すること」が64.3%と前回調査と比較して減少しているものの、最も多くなっている。次いで、「学校・家庭・地域をつなぐ人がいること」が45.4%と多くなっている。



※「地域の資源を活用した学習を充実すること」は今回調査より追加

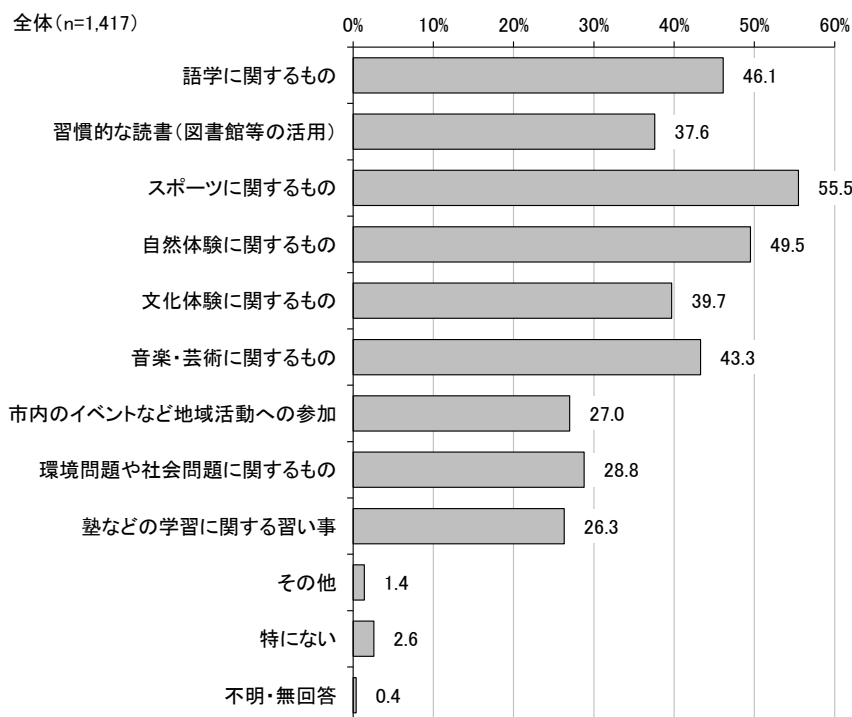
問 17 学校に対して協力してみたいと思うことはありますか。（あてはまるものすべて）

学校に対して協力してみたいこととして、「運動会や文化祭等の学校行事の支援」が 28.4%と最も多く、次いで「通学路における登下校時の見守り活動」が 26.2%と多くなっている。また、「特にない」という回答が3番目に多くなっている。



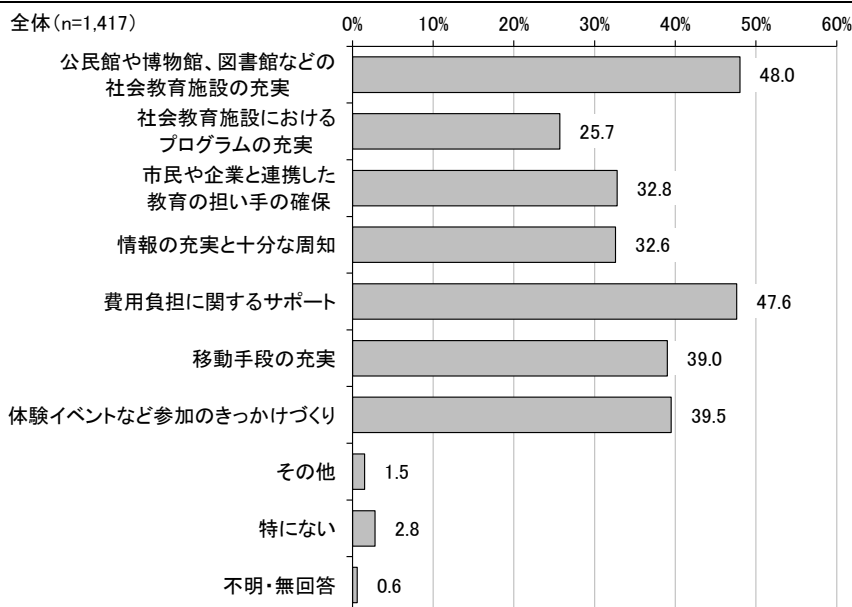
問 18 あなたは、学校や家庭以外で、児童生徒にどのような教育や体験活動が必要だと思いますか。（あてはまるものすべて）

学校や家庭以外で必要な教育や体験活動について、「スポーツに関するもの」が 55.5%と最も多く、次いで「自然体験に関するもの」が 49.5%と多くなっている。



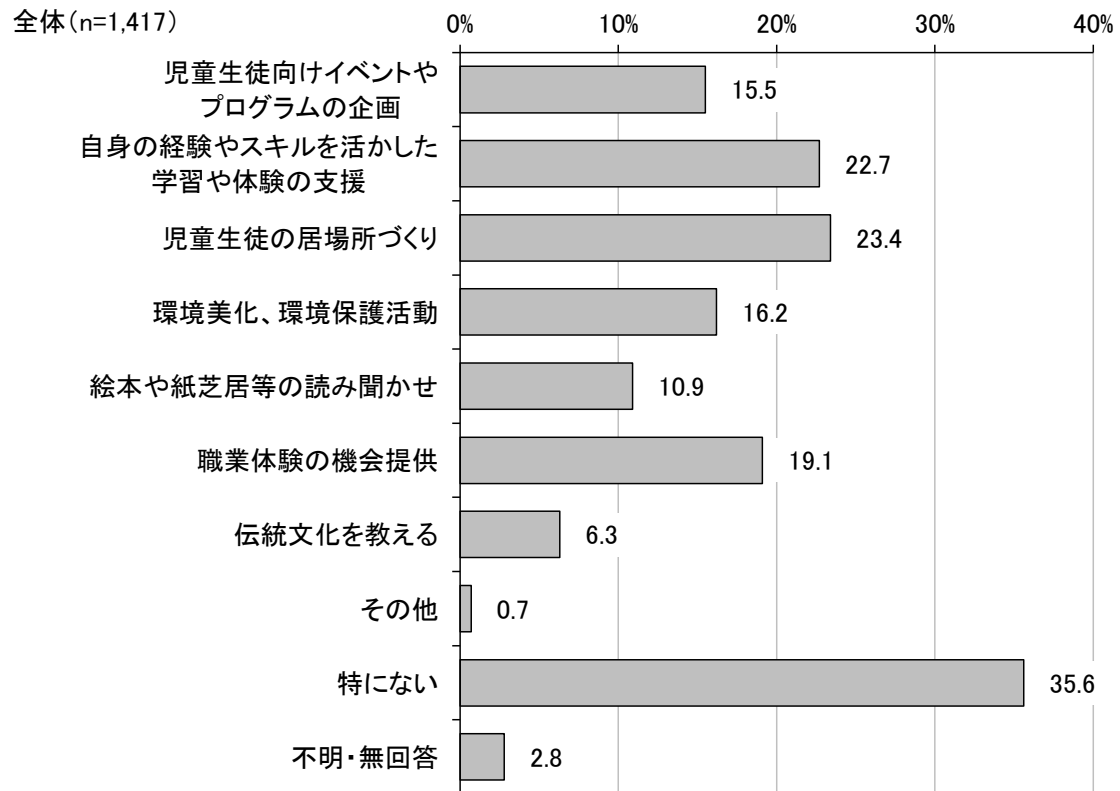
問 18-1 学校や家庭以外での教育のためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべて）

学校や家庭以外で教育を進めるために必要だと思うことについて、「公民館や博物館、図書館などの社会教育施設の充実」が 48.0%と最も多く、次いで「費用負担に関するサポート」が 47.6%と多くなっている。



問 19 学校や家庭以外での教育において、協力してみたいと思うことはありますか。（あてはまるものすべて）

学校や家庭以外で教育において協力してみたいことについて、「特にない」が 35.6%と最も多く、次いで「児童生徒の居場所づくり」が 23.4%と多くなっている。

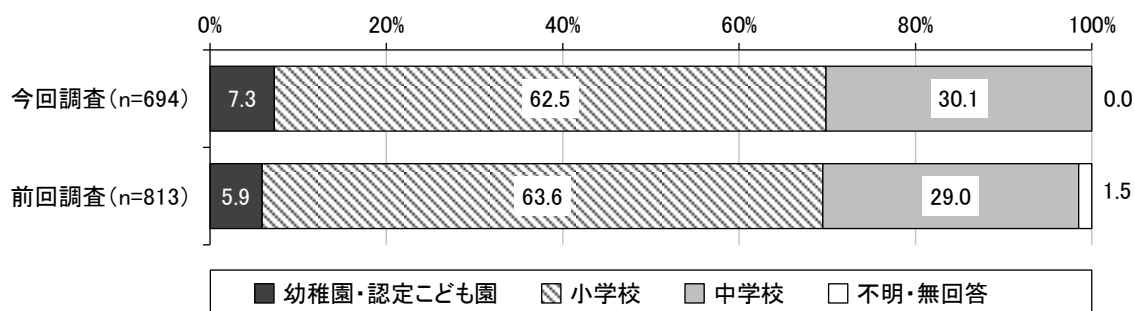


Ⅲ 教職員アンケート調査結果

1 回答者の基本属性

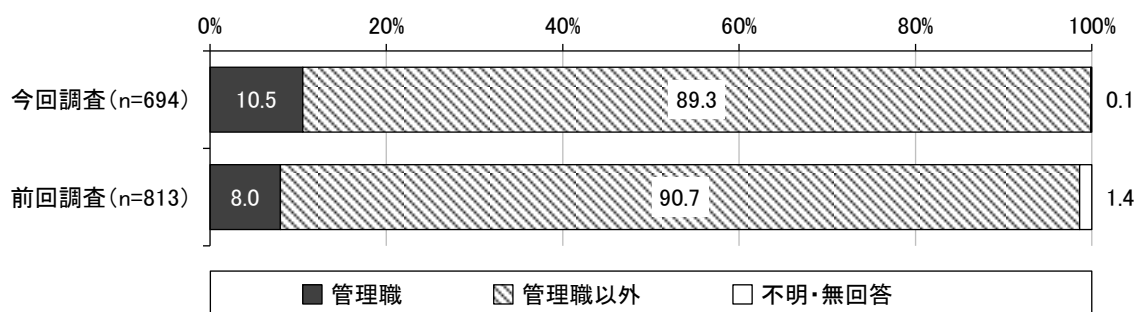
問1 あなたの勤務先はどちらですか。（あてはまるもの1つ）

今回の回答者の勤務先割合は前回調査時と大きな変化はなく、「幼稚園・認定こども園」が7.3%、「小学校」が62.5%、「中学校」が30.1%となっている。



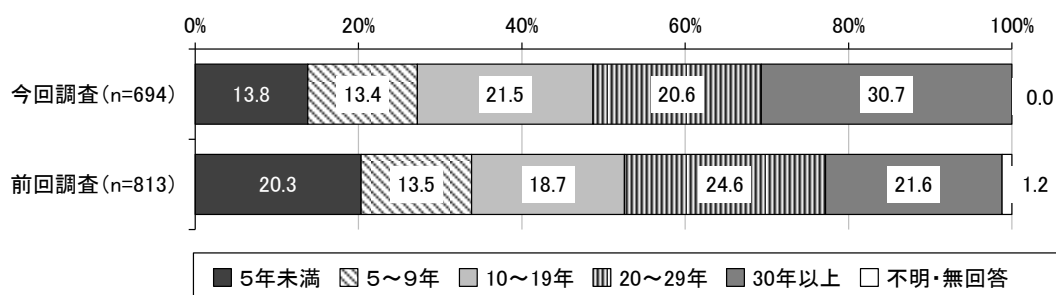
問2 あなたの職種を教えてください。（あてはまるもの1つ）

職種についても前回調査時と大きな変化はなく、「管理職」が10.5%、「管理職以外」が89.3%となっている。



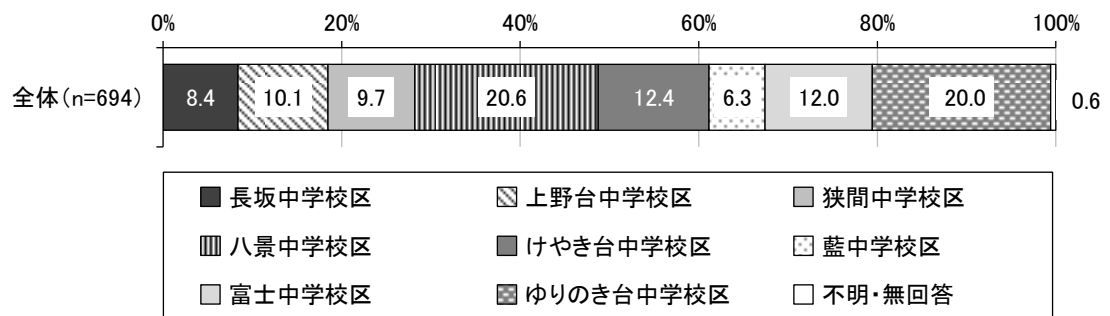
問3 三田市外を含む、学校の現場でのあなたの勤務経験を教えてください。（あてはまるもの1つ）

勤務経験において、前回調査時と比較し「20～29年」の回答者が9.1ポイント増加し、「5年未満」の回答者が6.5ポイント減少した。



問4 あなたが勤務している学校はどの校区ですか。(あてはまるもの1つ)

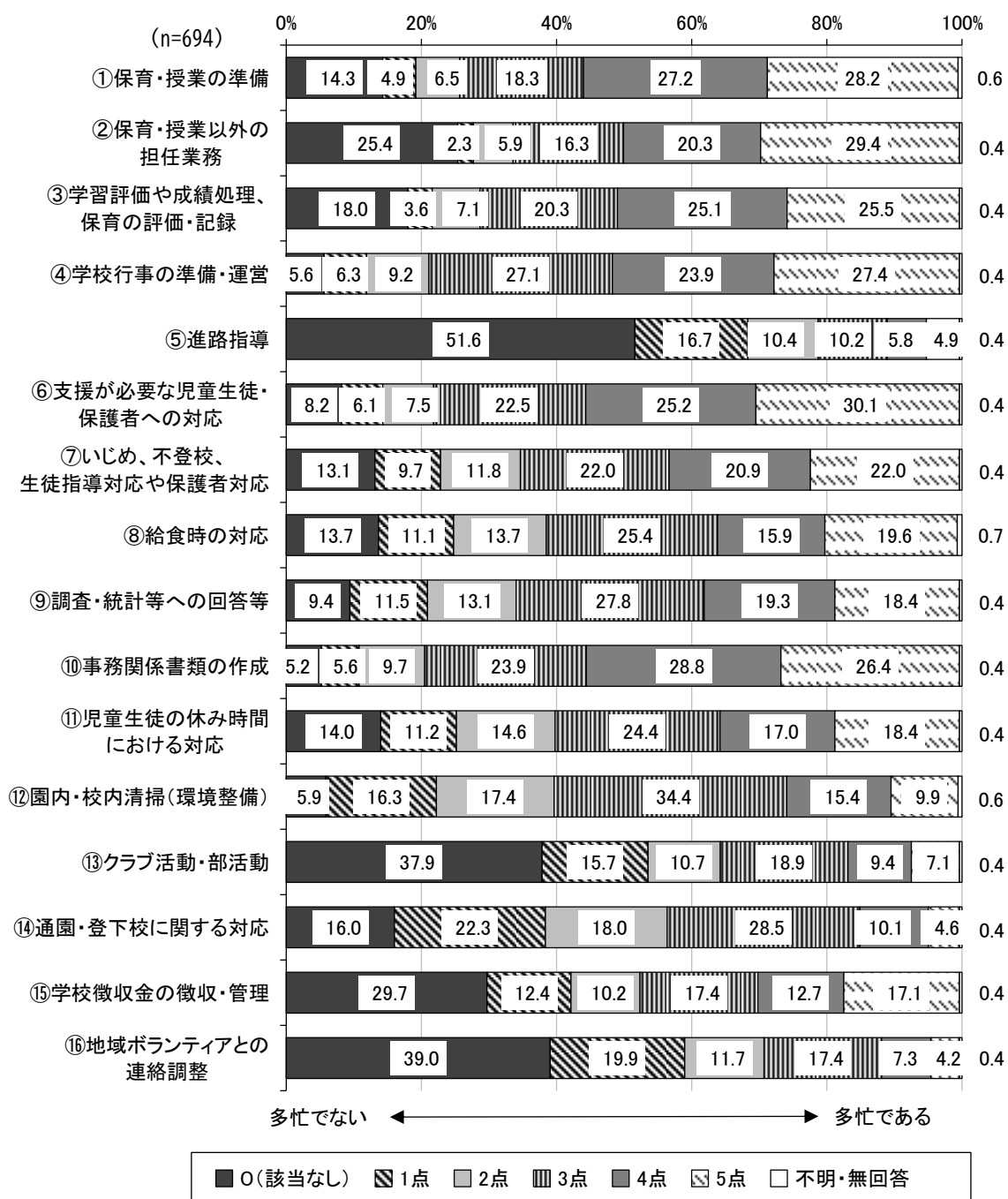
勤務している校区については大きな変化はなく、「八景中学校区」が最も多い20.6%、次いで「ゆりのき台中学校区」が20.0%、「けやき台中学校区」が12.4%となっている。



2 教職員の職場環境について

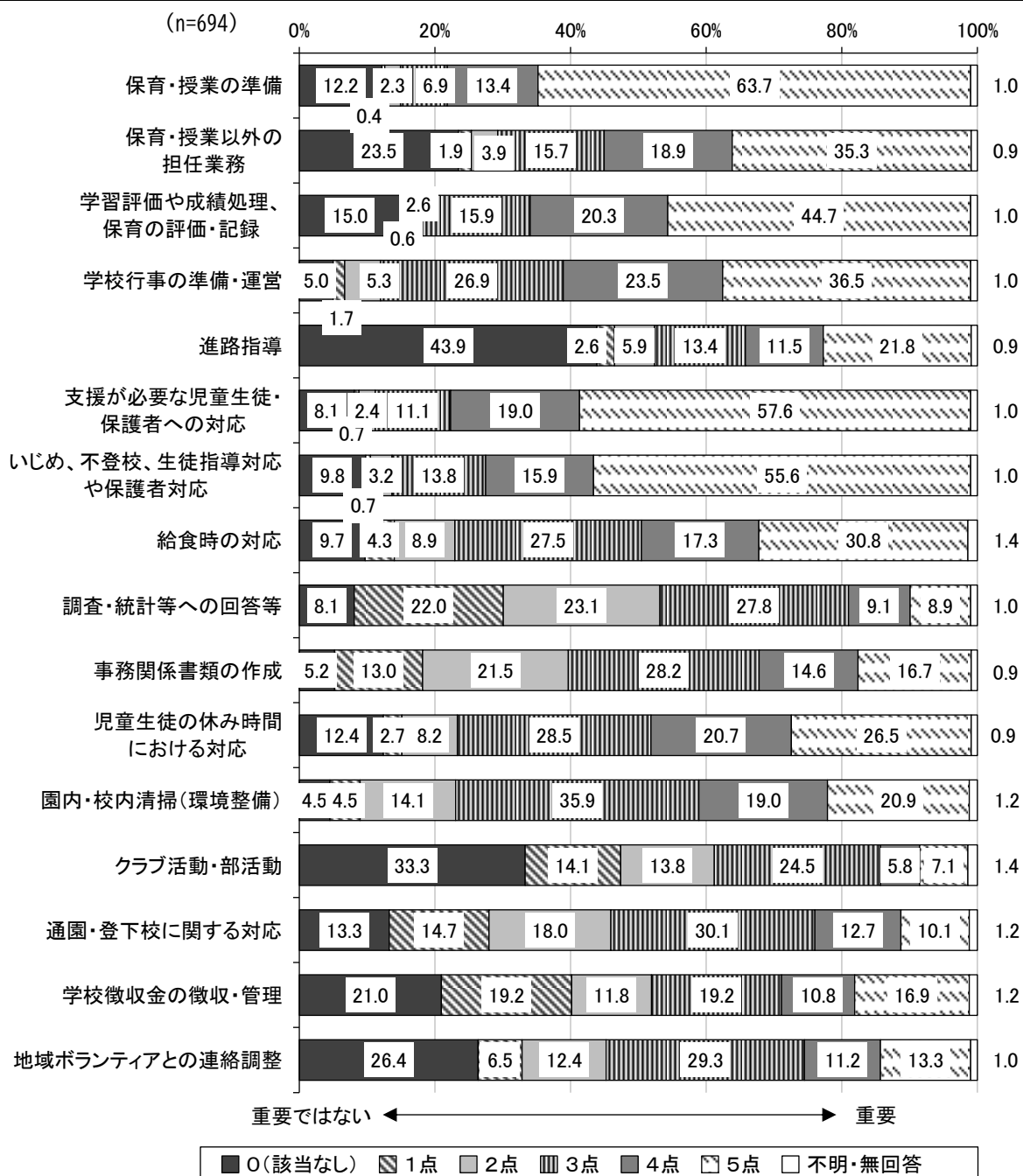
問5-1 あなたはご自身の職務について、「現在の状況」として、①～⑯のどの業務が多忙ですか。（「該当なし」を0とし、「多忙である」を5点、「多忙でない」を1点としてそれぞれあてはまるもの1つ）

教職員にとって現在多忙な業務は、「支援が必要な児童生徒・保護者への対応」が30.1%と最も多く、次いで「保育・授業以外の担任業務」が29.4%、「保育・授業の準備」が28.2%と多くなっており、外部との連携やデジタル化による業務負担の軽減が必要とされていることが伺える。



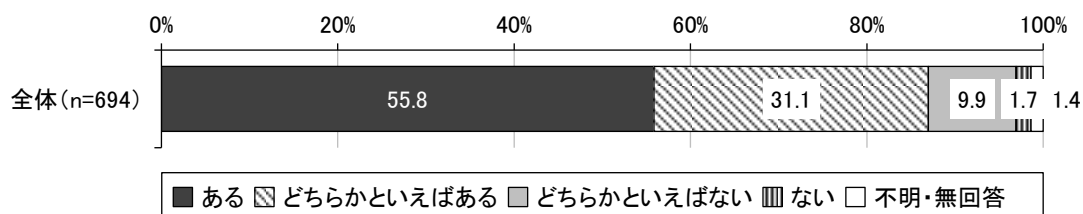
問5-2 ①～⑯の業務としての「今後の重要度」について、あなたの考えに最も近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。（「該当なし」を0とし、「重要」を5点、「重要でない」を1点としてそれぞれあてはまるもの1つ）

教職員における今後の重要度は、「保育・授業の準備」が63.7%最も多く、次いで「支援が必要な児童生徒・保護者への対応」が57.6%、「いじめ、不登校、生徒指導対応や保護者対応」が55.6%と多くなっており、「重要である」と考えている業務が特に負担となっていることが伺える。



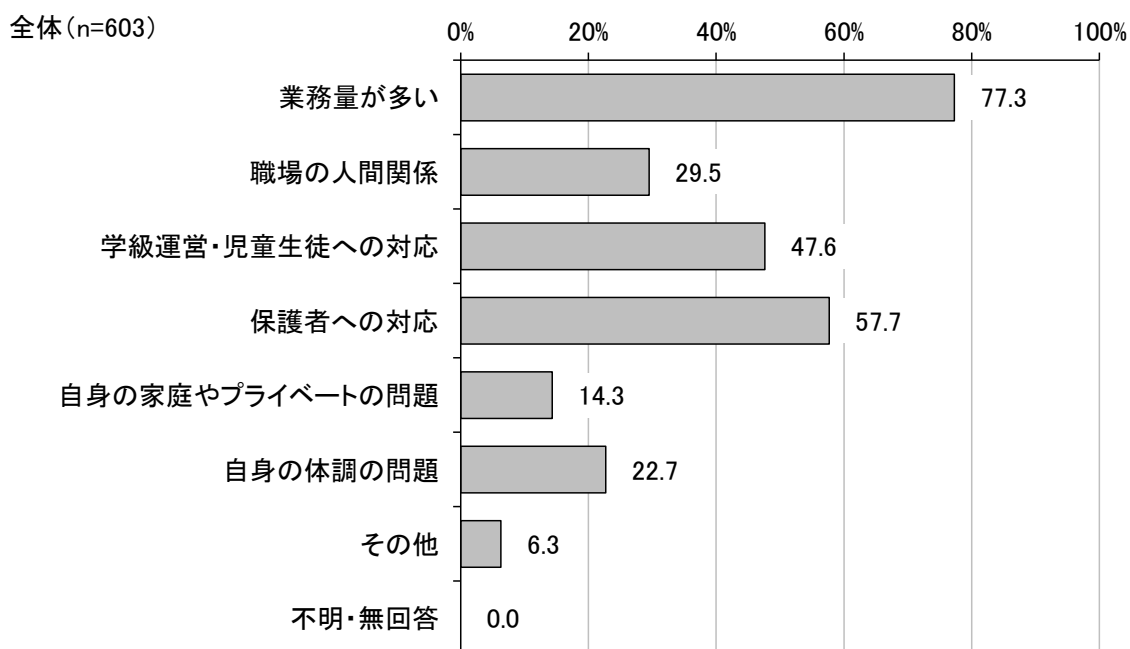
問6 業務において、負担やストレスを感じる点がありますか。（あてはまるもの1つ）

業務において負担やストレスを感じる点が「ある」と回答した人が55.8%と半数を超えており、「どちらかといえばある」と感じている回答者を含めると86.9%と、多くの教職員が負担やストレスを感じていることが伺える。



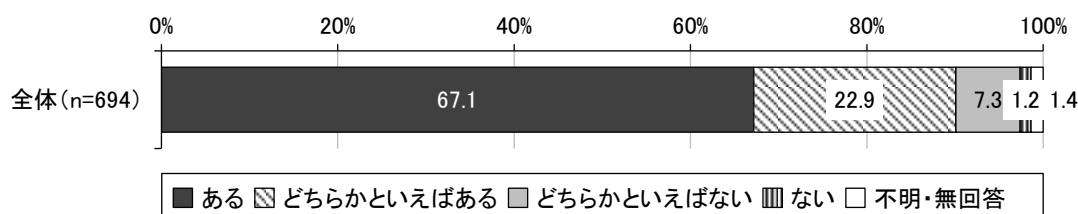
問6-1 負担やストレスを感じるのはどんなことですか。（あてはまるものすべて）

具体的な負担やストレスの原因として、「業務量の多い」ことが77.3%と最も多く、次いで「保護者への対応」が57.7%となっている。一方で、「自身の家庭やプライベートの問題」や「自身の体調の問題」という回答はそれぞれ14.3%、22.7%と少なくなっており、業務や働き方が課題になっていることが伺える。



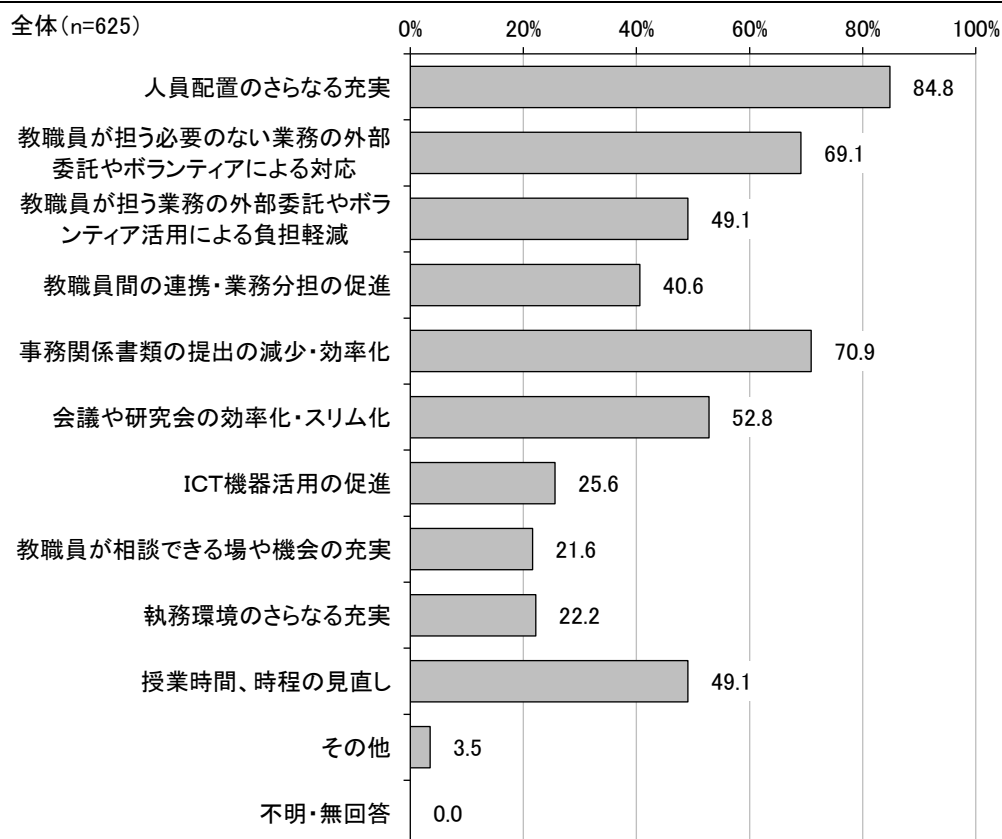
問7 業務を進めるうえで、改善が必要だと感じる点がありますか。（あてはまるもの1つ）

業務を進めるうえで、改善が必要だと感じる点が「ある」と回答した人が67.1%、「どちらかといえばある」と感じている回答者を含めると90.0%と、多くの教職員が業務改善の必要性を感じていることが伺える。



問7-1 特に改善が必要だと思うものは何ですか。（あてはまるものすべて）

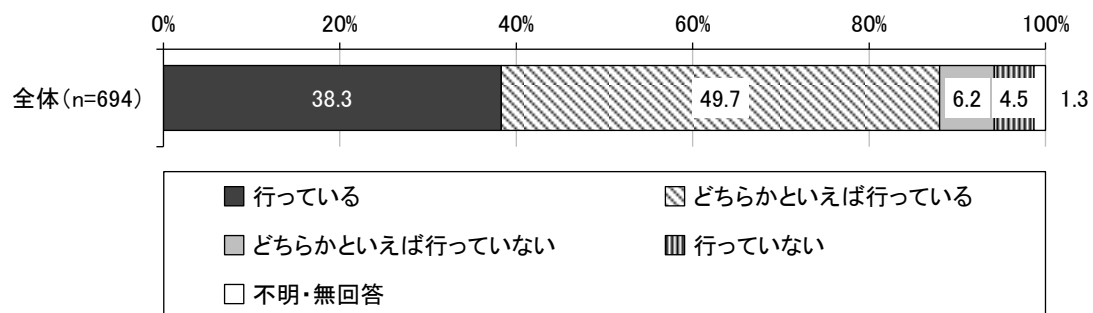
特に改善が必要だと思う点について、「人員配置のさらなる充実」が84.8%と最も多く、次いで「事務関係書類の提出の減少・効率化」が70.9%、「教職員が担う必要のない業務の外部委託やボランティアによる対応」が69.1%と、業務量の改善や業務の効率化・分担が必要とされていることが伺える。



3 教育や学習に関する取組について

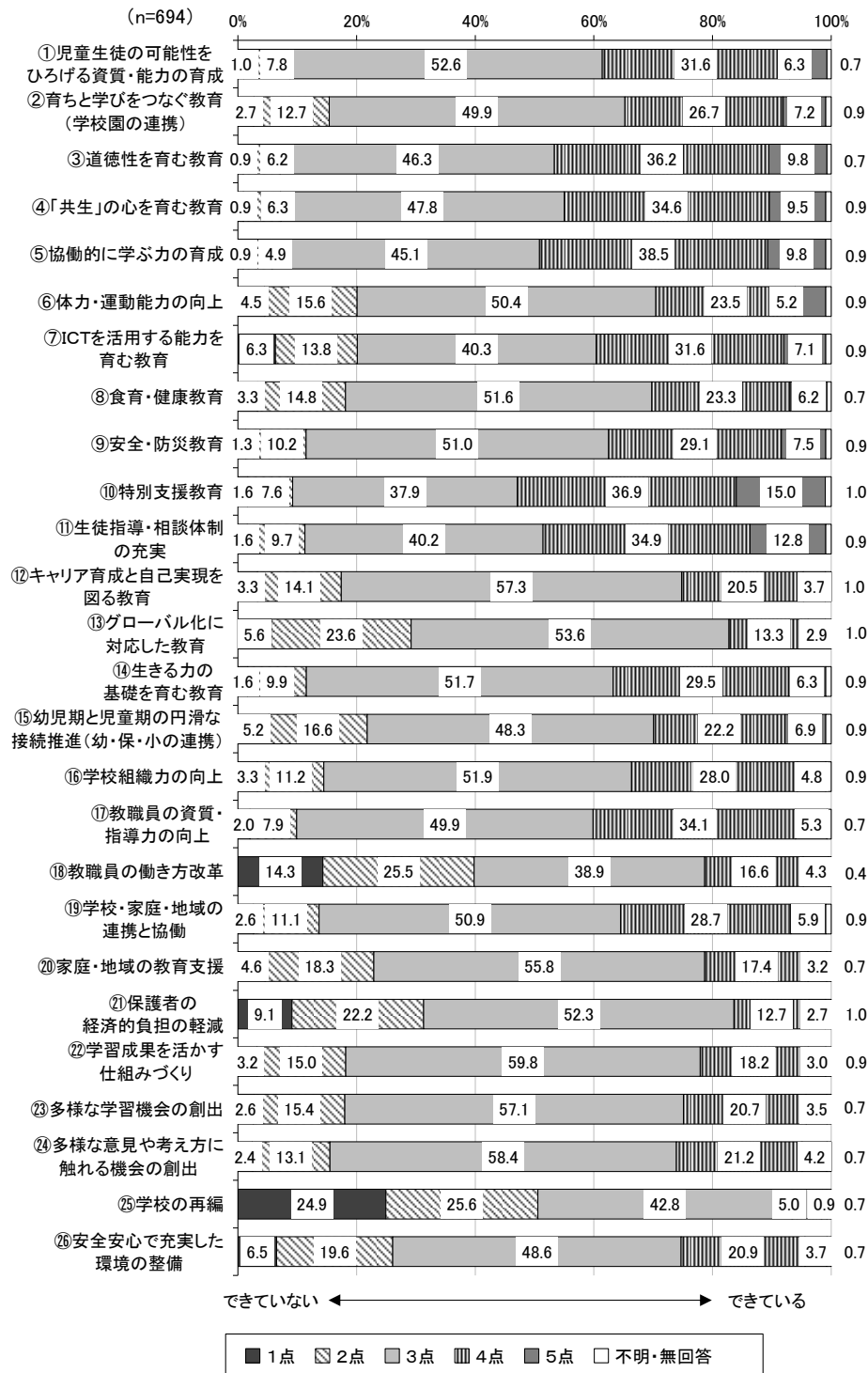
問8 あなたは、児童生徒への指導力向上に向けた実践を行っていますか。（あてはまるもの1つ）

指導力向上に向けた実践について、「行っている」「どちらかといえば行っている」と回答した人が88.0%であり、約10%の回答者が「行っていない」「どちらかといえば行っていない」と感じている。



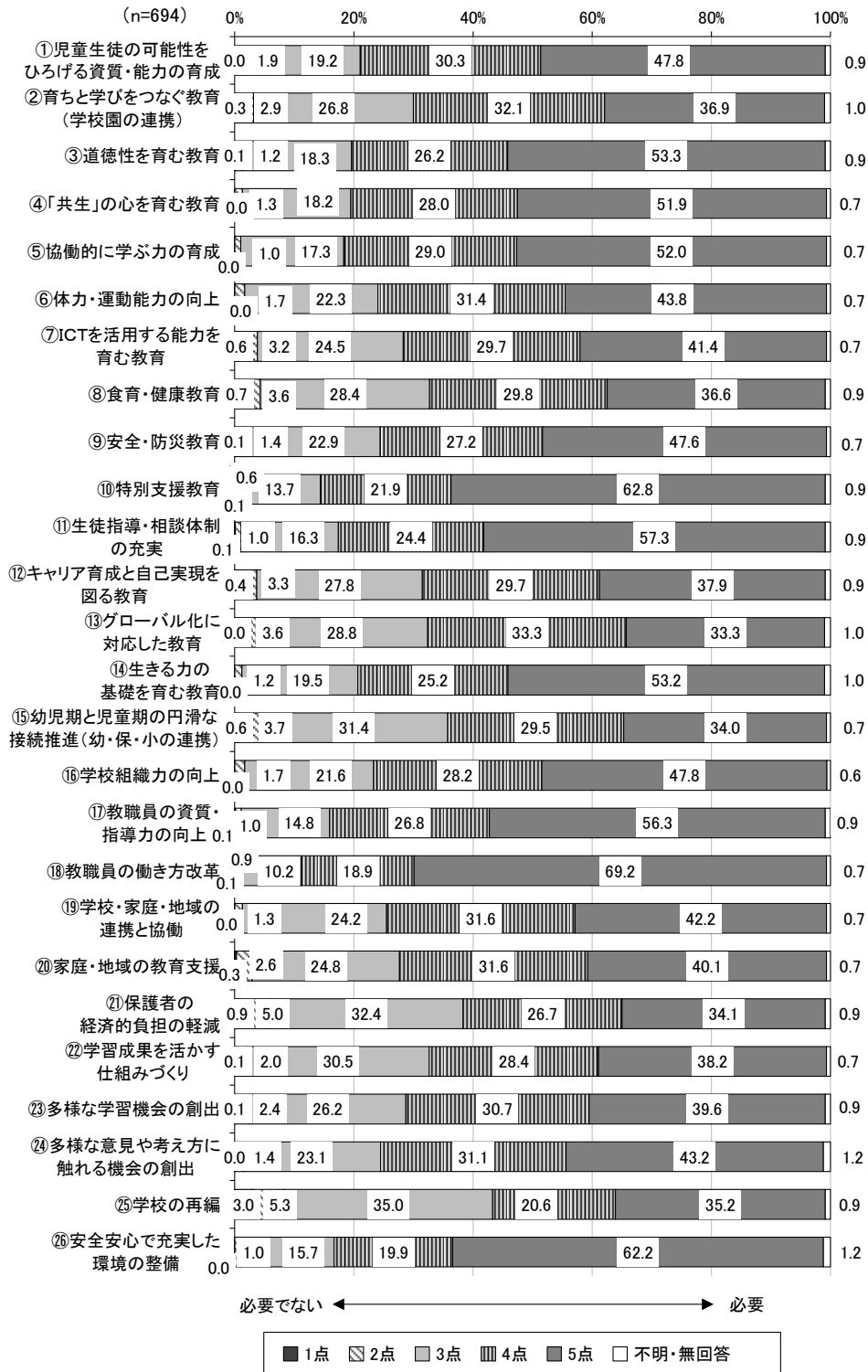
問9-1 ①～⑳の三田市の教育の取組の中で、「現在の状況」（できていると感じるもの）はどれですか。（「できている」を5点、「できていない」を1点としてそれぞれあてはまるもの1つ）

教育の取組の中で「現在できている」と感じるものとして、「特別支援教育」や「生徒指導・相談体制の充実」が多くなっている一方で、できていないと感じているものとして「学校の再編」や「教職員の働き方改革」が多くなっており、学校の運営体制の改善が課題となっていることが伺える。



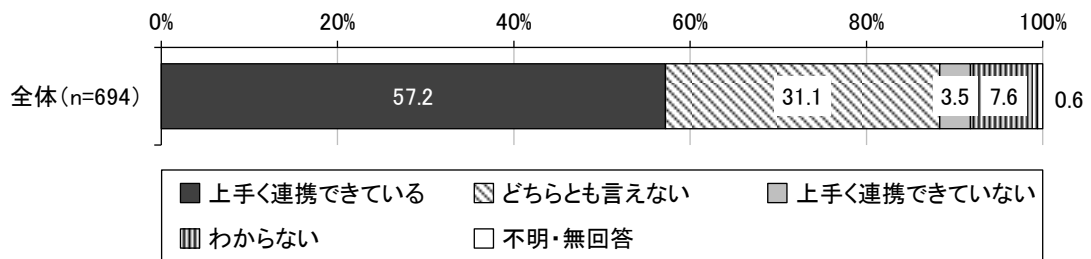
問9-2 ①～⑳の三田市の教育の取組の中で、今後「充実する必要があるもの」はどれですか。（充実が「必要」を5点、「必要でない」を1点としてそれぞれあてはまるもの1つ）

教育の取組の中で「充実する必要がある」と感じるものとして、「教職員の働き方改革」が最も多く、次いで「特別支援教育」や「安全安心で充実した環境の整備」などが多くなっており、教職員の働き方改革が喫緊の課題であることが伺える。



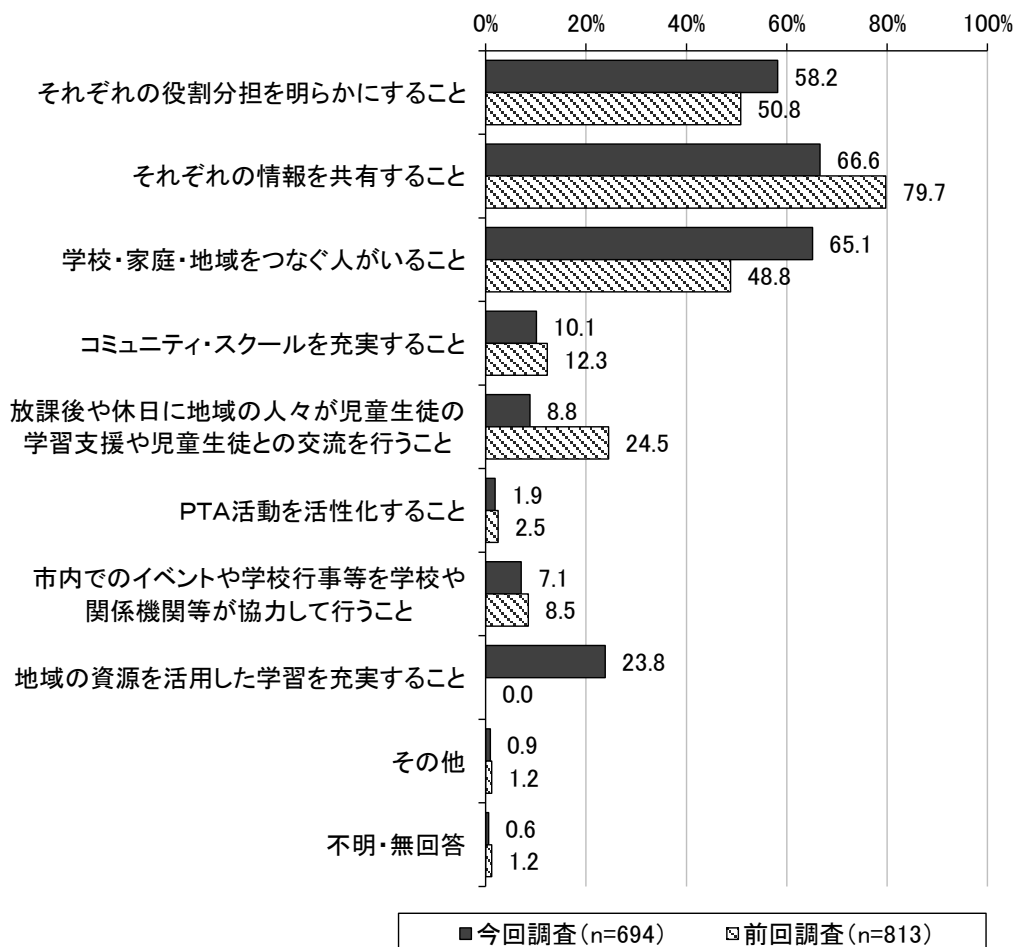
問 10 あなたの学校と地域は、上手く連携できていますか。（あてはまるもの1つ）

学校と地域の連携について、「上手く連携できている」と感じている回答者が 57.2%と半数以上となっており、連携に対する課題意識は低いことが伺える。



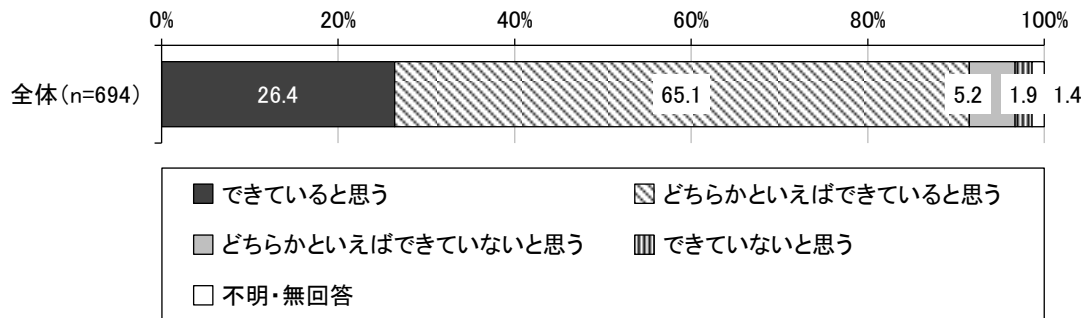
問 11 学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深め、子育てしていく上で、大切なことは何だと思えますか。（3つまで）

学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深め、子育てしていく上で大切なこととして、前回調査よりも 10 ポイント以上減少したものの「それぞれの情報を共有すること」が 66.6%と最も多く、次いで「学校・家庭・地域をつなぐ人がいること」が 65.1%と 10 ポイント以上増加し、2 番目に多い結果となった。



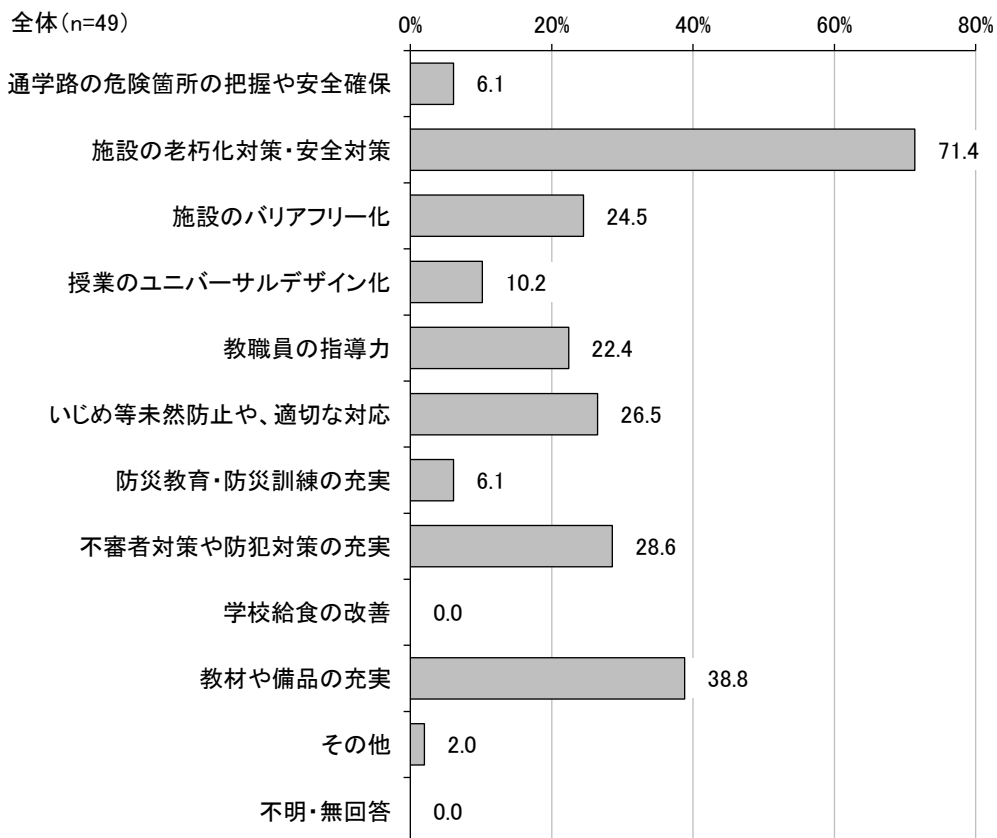
問 12 あなたの学校は、児童生徒が安心して学べる環境ができていると思いますか。
(あてはまるもの1つ)

児童生徒が安心して学べる環境が「できている」「どちらかといえばできている」と感じている回答者が 91.5%を占めており、「できていない」「どちらかといえばできていない」と感じている回答者は 7.1%に留まっている。



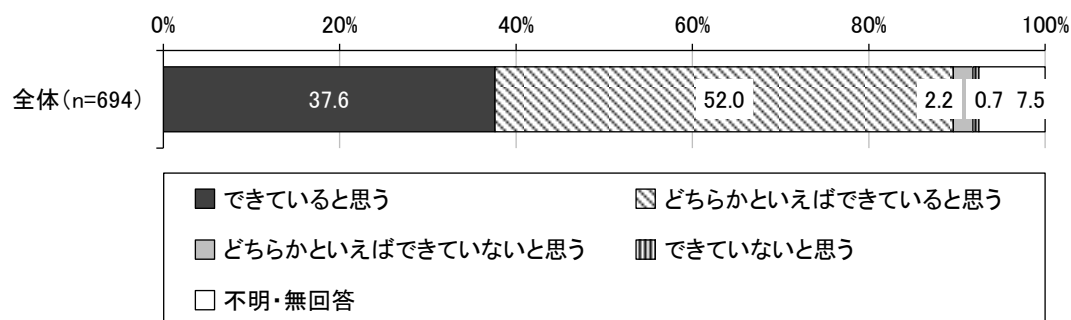
問 12-1 特に改善が必要だと思うものは何ですか。(3つまで)

特に改善が必要だと思うものにつきまして、「施設の老朽化対策・安全対策」が 71.4%と最も多く、次いで「教材や備品の充実」が 38.8%となっている。



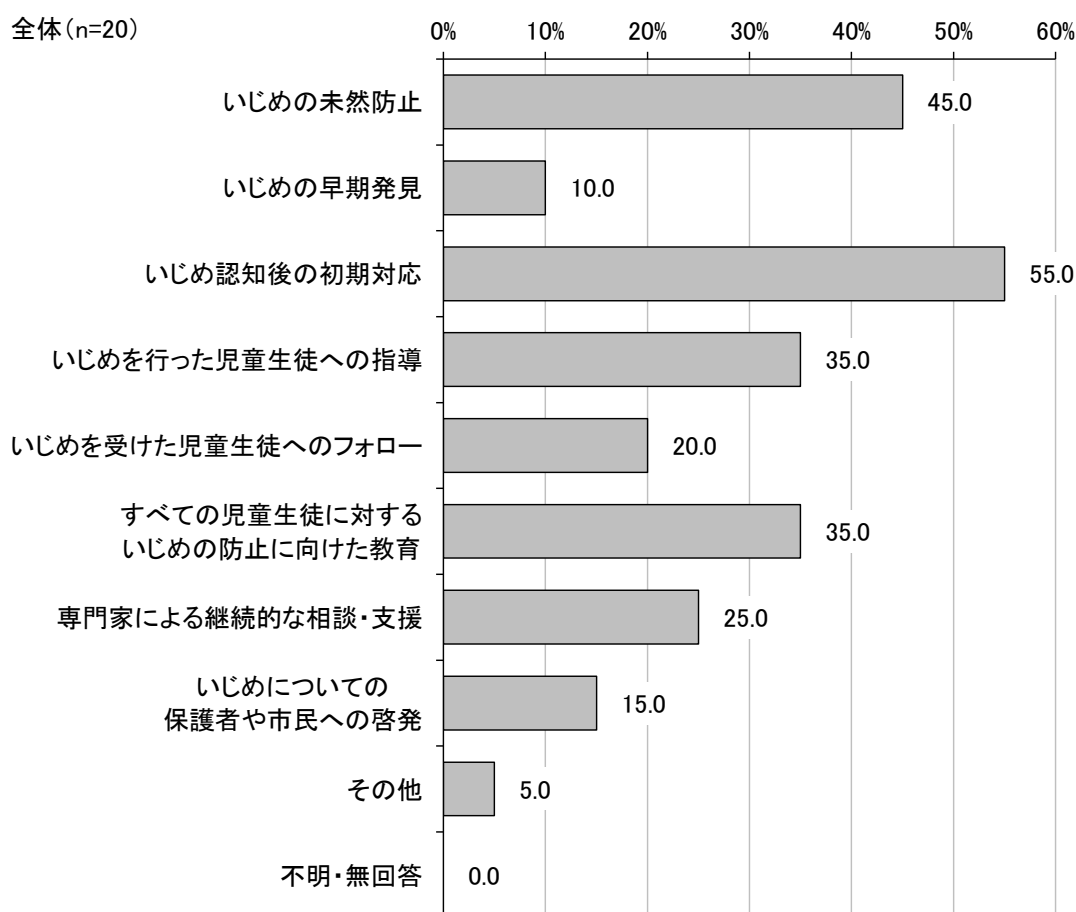
問 13 あなたの学校は、いじめへの対策・対応が適切にできていると思いますか。
 (あてはまるもの1つ)

いじめへの対策・対応が適切に「できている」「どちらかといえばできている」と感じている回答者は89.6%を占めており、「できていない」「どちらかといえばできていない」と感じている回答者は2.9%に留まっている。



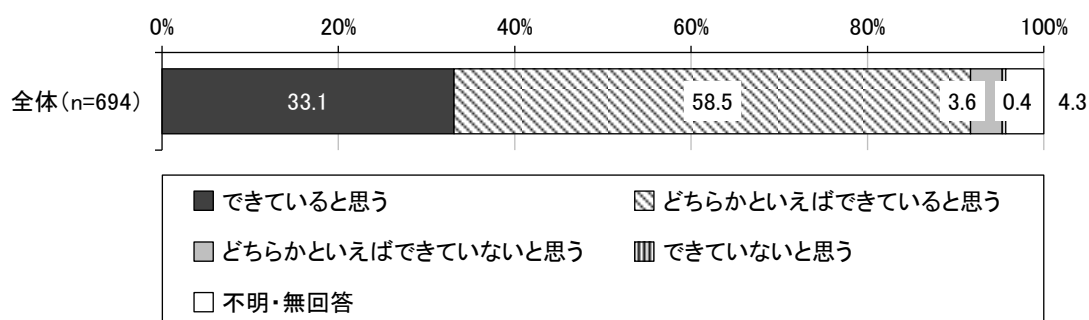
問 13-1 特に改善が必要だと思うものは何ですか。(3つまで)

特に改善が必要だと思うものとして、「いじめ認知後の初期対応」が55.0%と最も多く、次いで「いじめの未然防止」が45.0%となっている。



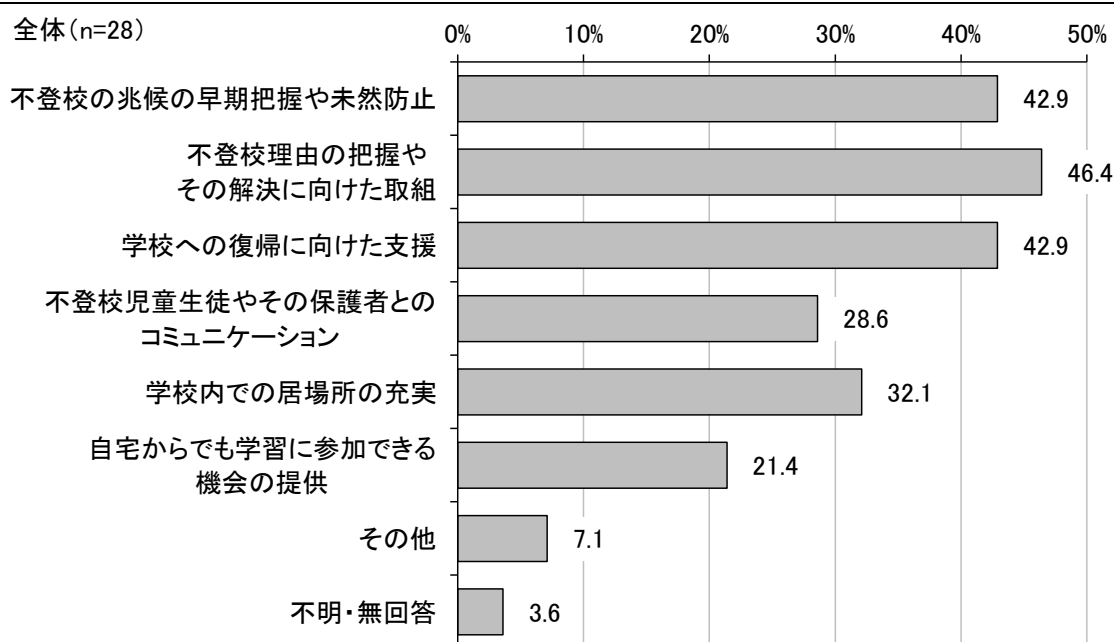
問 14 あなたの学校は、不登校児童生徒への対策・対応が適切にできていると思いますか。（あてはまるもの1つ）

不登校児童生徒への対策・対応について、「できている」「どちらかといえばできている」と感じている回答者は91.6%を占めており、「できていない」「どちらかといえばできていない」と感じている回答者は4.0%に留まっている。



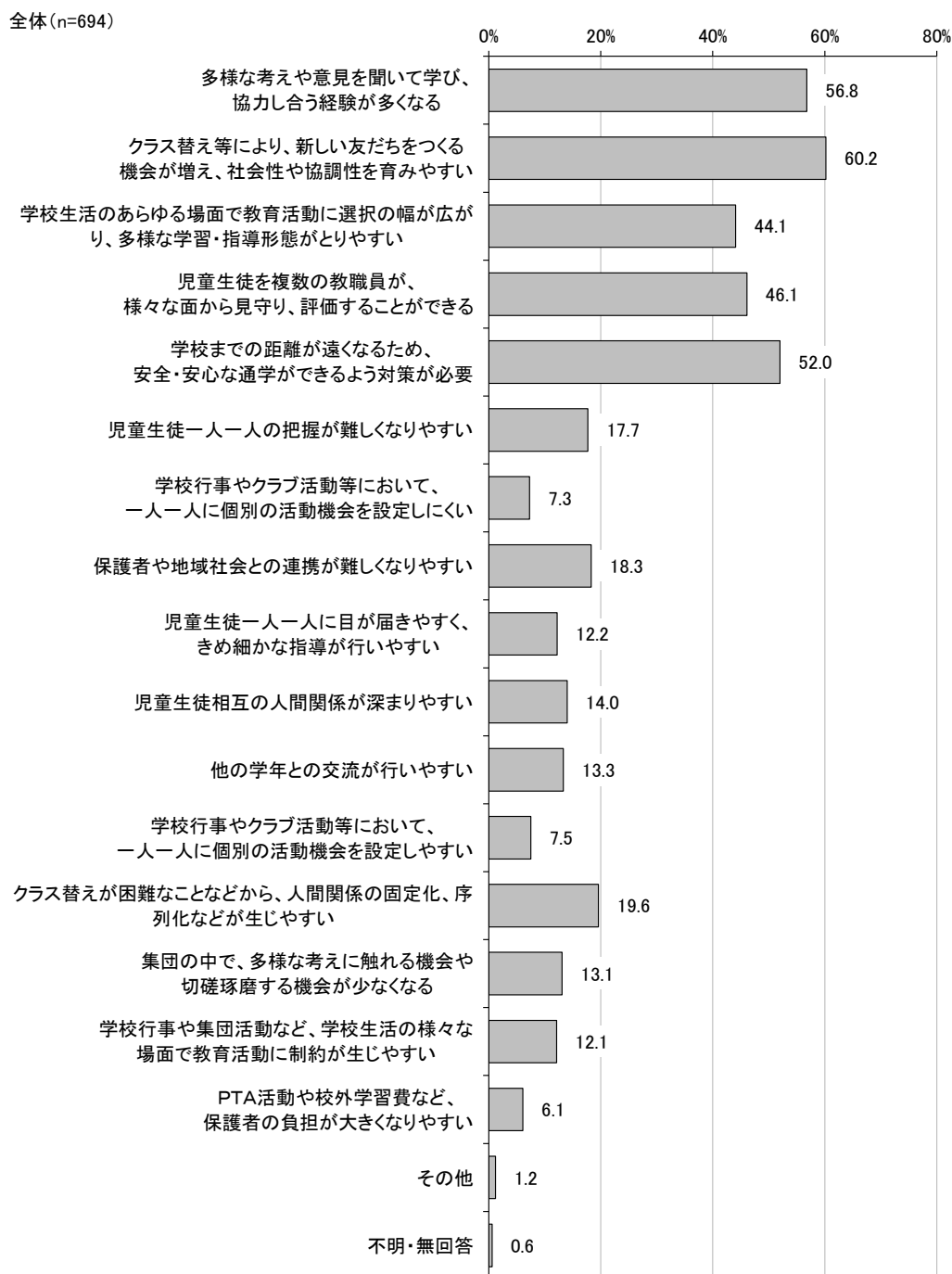
問 14-1 特にできていないと思うものは何ですか。（あてはまるものすべて）

特にできていないと思うものとして、「不登校理由の把握やその解決に向けた取組」が46.4%と最も多く、次いで「不登校の兆候の早期把握や未然防止」「学校への復帰に向けた支援」が同じく42.9%となっている。



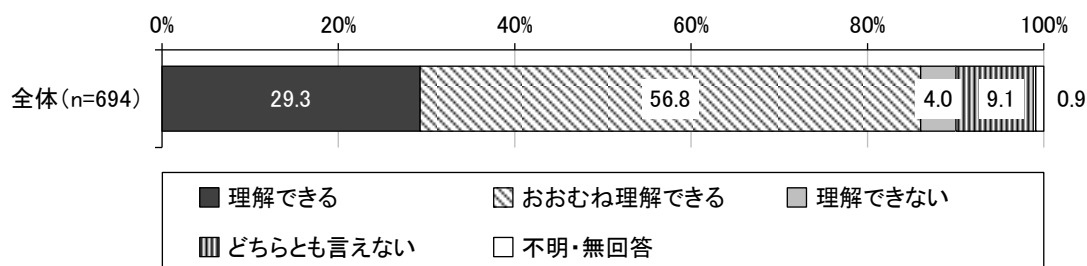
問 15 本市では、学校の小規模化に伴う諸課題を解消し、教育環境や学習環境を充実していくため、三田市立学校のあり方に関する基本方針に基づき学校再編（統合）の取組を進めていくこととしています。この取組について期待することや、心配なことなど、あなたのお考えに近いものを選んでください。（あてはまるものすべて）

学校再編の取組への関心として、「クラス替え等により、新しい友だちをつくる機会が増え、社会性や協調性を育みやすい」が60.2%と最も多く、次いで「多様な考えや意見を聞いて学び、協力し合う経験が多くなる」が56.8%で多くなっている。



問 15-1 あなたは、学校再編の取組についてどのように思われますか。（あてはまるもの1つ）

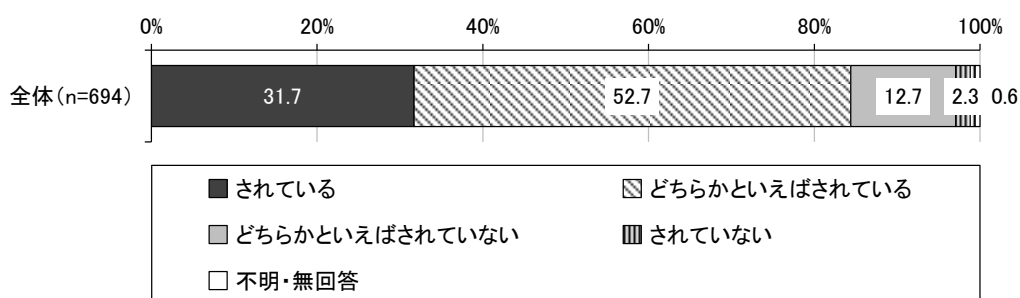
学校再編の取組について「理解できる」「おおむね理解できる」と感じている回答者が 86.1%を占めており、理解が進んでいることが伺える。



4 ICT教育について

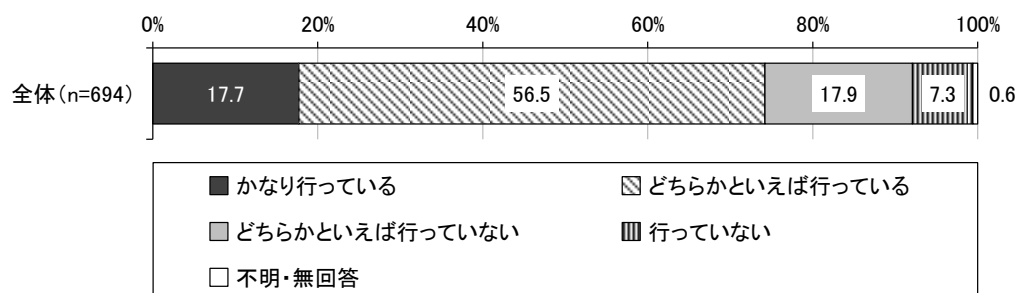
問 16 あなたの勤務先の学校のICT環境は整備されていますか。（あてはまるもの1つ）

勤務先のICT環境の整備について、「されている」「どちらかといえばされている」と感じている回答者が 84.4%を占めており、環境整備が進んでいることが伺える。



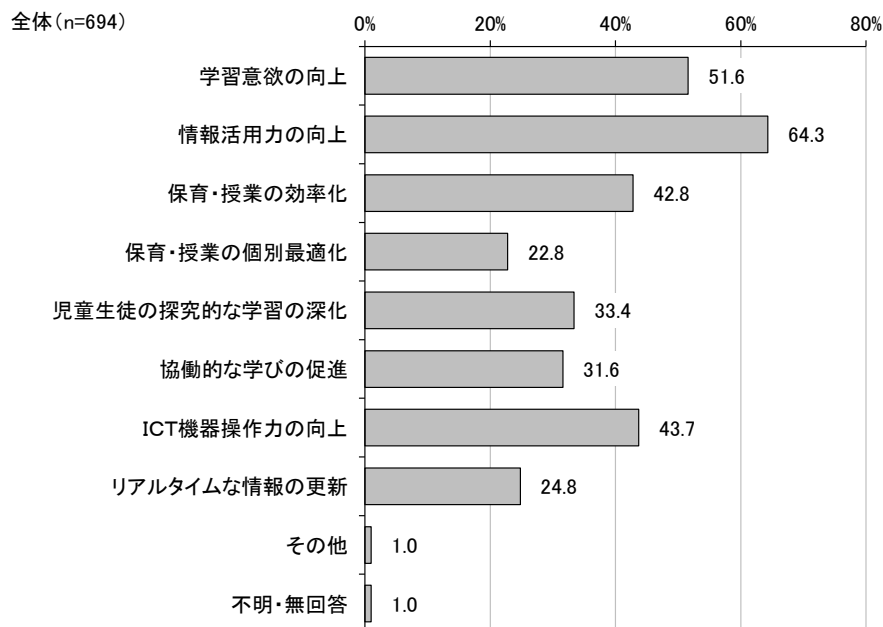
問 17 あなたは、ICT機器を活用した保育・授業をどの程度行っていますか。（あてはまるもの1つ）

ICT機器を活用した保育・授業について、「かなり行っている」「どちらかといえば行っている」と感じている回答者が 74.2%を占めており、多くの学校で行っていることが伺える。



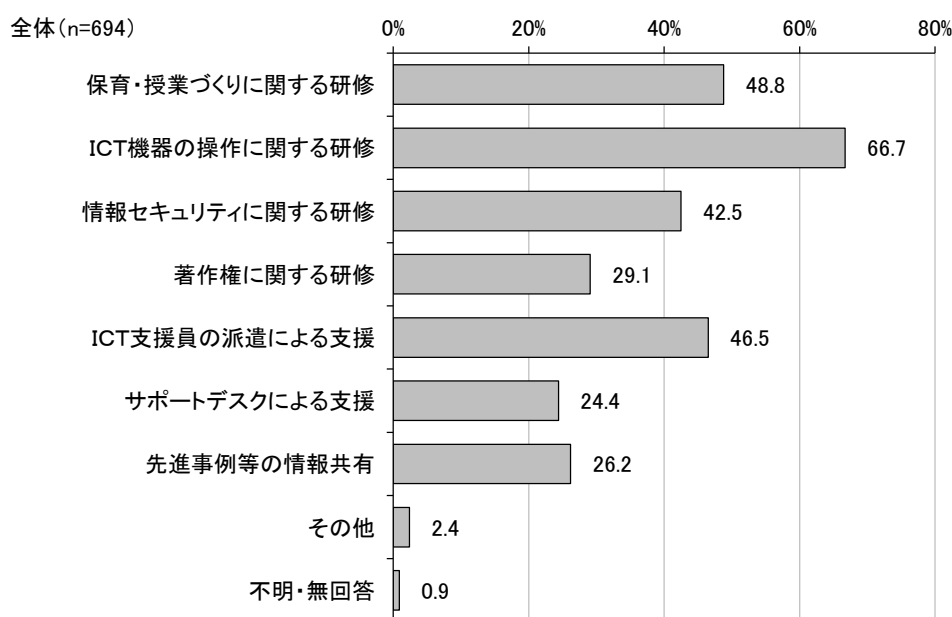
問 18 ICT機器を活用した保育・授業によるメリットと感ずることは何ですか。
 (あてはまるものすべて)

ICT機器を活用した保育・授業のメリットを感ずることとして、「情報活用力の向上」が64.3%と最も多く、次いで「学習意欲の向上」が51.6%と多くなっている。



問 19 ICT機器を活用した教育の推進には、どのような支援が必要だと感ずますか。
 (あてはまるものすべて)

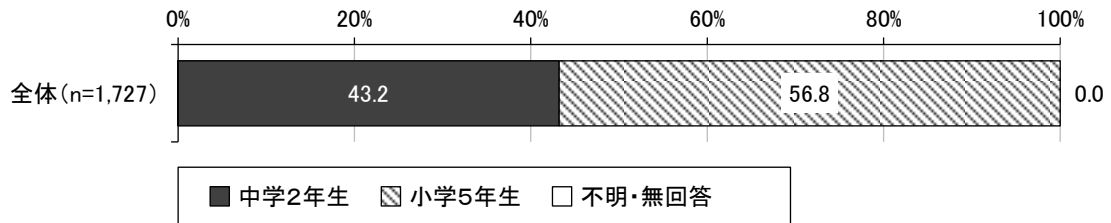
ICT機器を活用した教育の推進に必要な支援として、「ICT機器の操作に関する研修」が66.7%と最も多く、次いで「保育・授業づくりに関する研修」が48.8%と多くなっている。



IV 小中学生アンケート調査結果

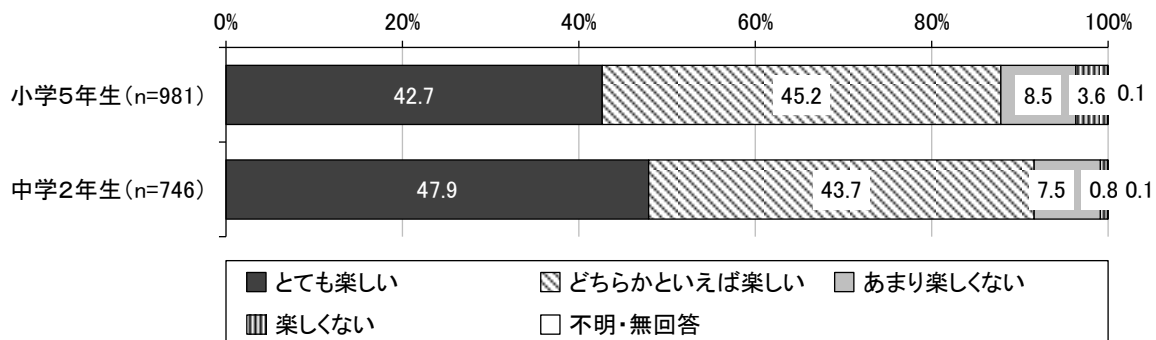
問1 あなたの学年をおしえてください。（あてはまるもの1つ）

中学生2年生が43.2%、小学5年生が56.8%となっている。



問2 学校は楽しいですか。（あてはまるもの1つ）

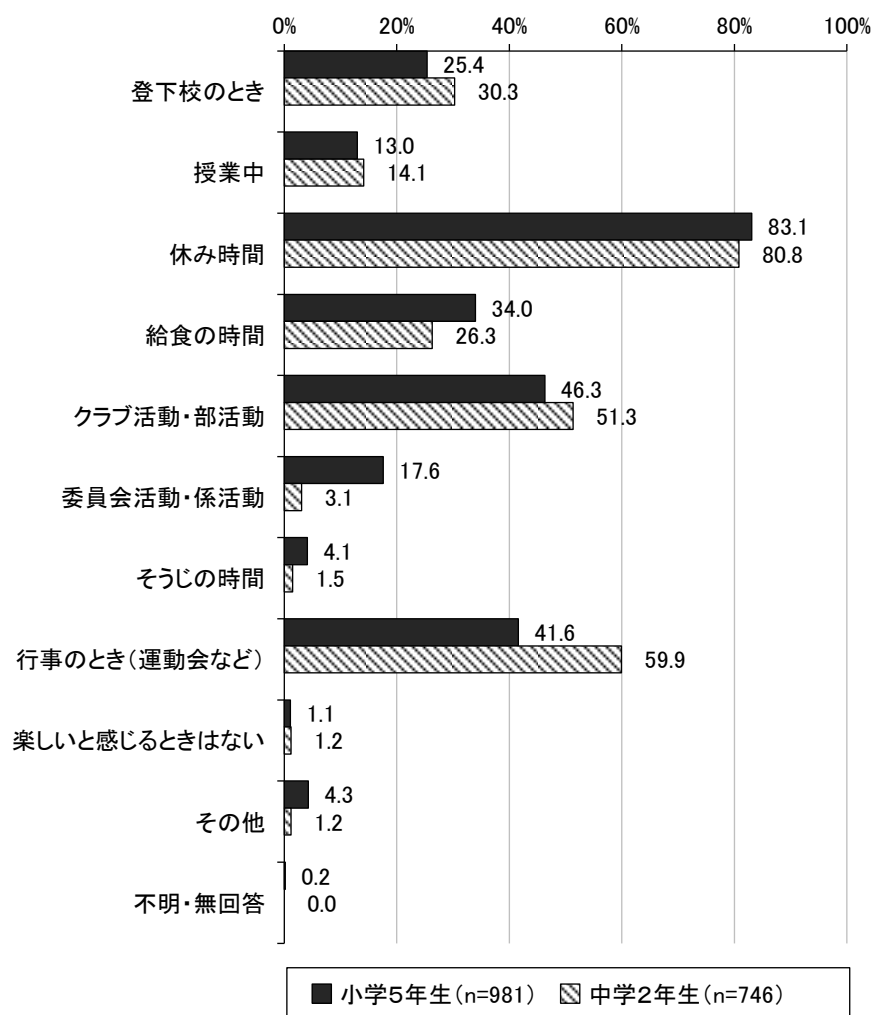
「とても楽しい」「どちらかといえば楽しい」と回答した人の割合が、中学2年生では91.6%、小学5年生では87.9%となっており、多くの児童生徒が学校を楽しんでいることが伺える。



学校生活が楽しい理由	
(1) 友人との交流・人間関係	411件
(2) 授業・学習内容	94件
(3) 学校の雰囲気・環境	44件
(4) 部活動・クラブ活動	23件
(5) 学校行事・活動	17件
(6) 休み時間・放課後	17件
(7) 給食	8件
(8) その他	24件
学校生活があまり楽しくない・大変な理由	
(1) 勉強・授業への不満・困難	62件
(2) 教師・指導への不満	7件
(3) 人間関係の悩み・いじめ	29件
(4) 規則・環境への不満	24件
(5) その他	30件

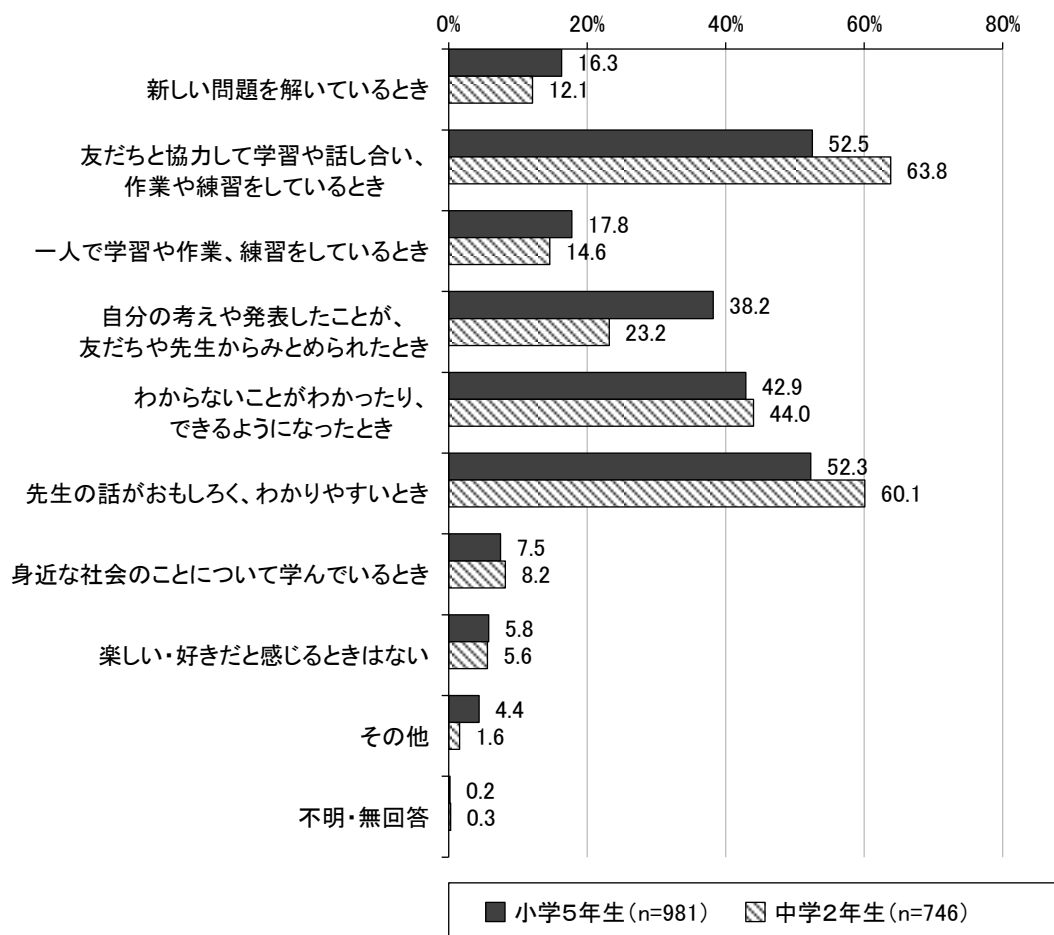
問3 毎日の学校生活で、楽しいと感じるときはいつですか。（あてはまるもの3つまで）

毎日の学校生活で楽しいと感じるときについて、中学2年生と小学5年生のともに「休み時間」が80%超えで最も多く、次いで中学2年生では「行事のとき」が59.9%、小学5年生では「クラブ活動・部活動」が46.3%と多くなっている。一方で、「授業中」と回答した人は約15%に留まっている現状となっており、楽しいと感じる授業づくりが課題になっていることが伺える。



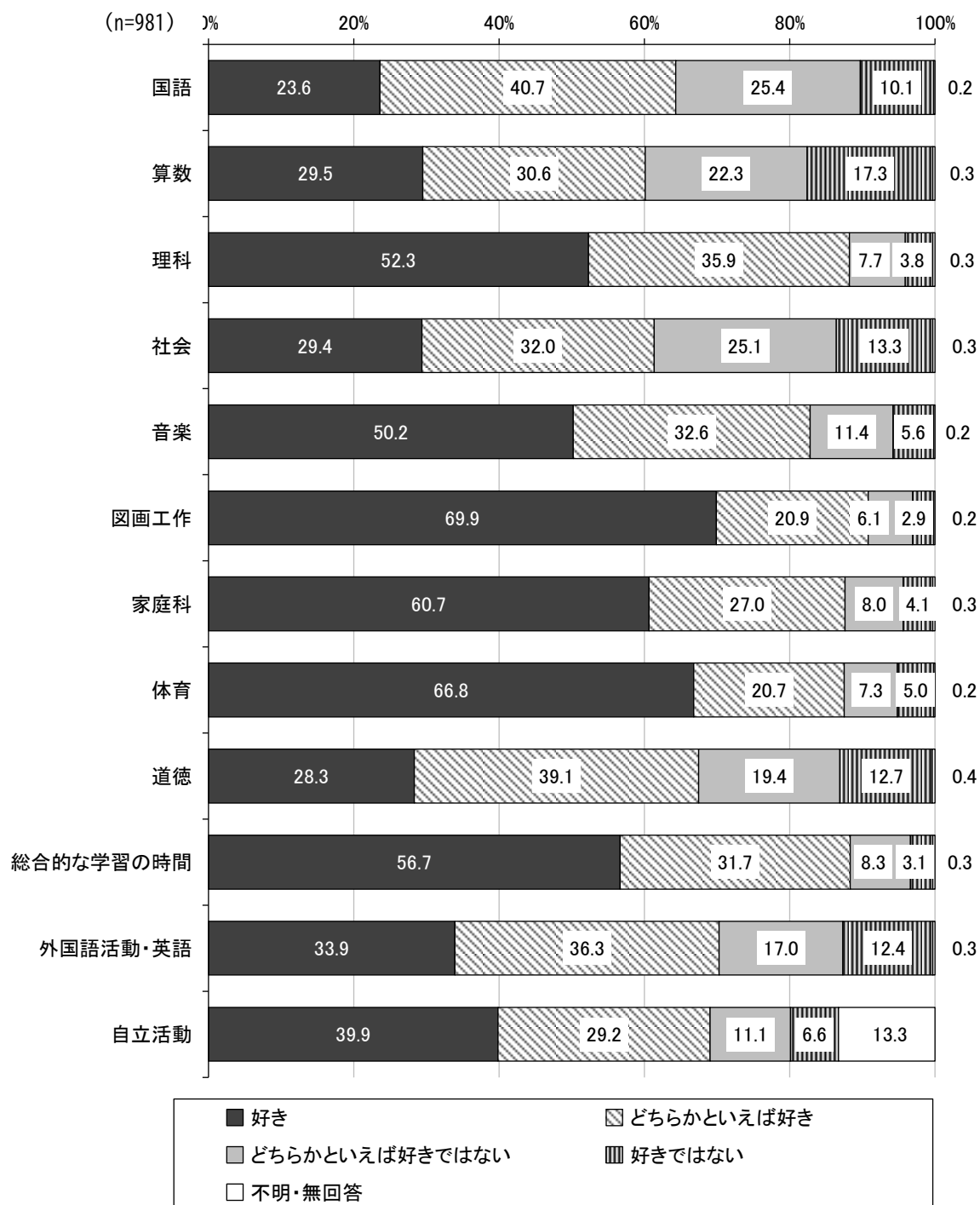
問4 学級活動やクラブ活動・部活動などの特別活動をのぞいて、授業が楽しい、好きだと感じるときはいつですか。（あてはまるもの3つまで）

授業が楽しい、好きだと感じるときについて、中学2年生、小学5年生ともに「友だちと協力して学習や話し合い、作業や練習をしているとき」が63.8%と最も多く、次いで「先生の話がおもしろく、わかりやすいとき」が60.1%と多くなっており、人とのコミュニケーションの中に楽しさを見出す傾向が伺える。



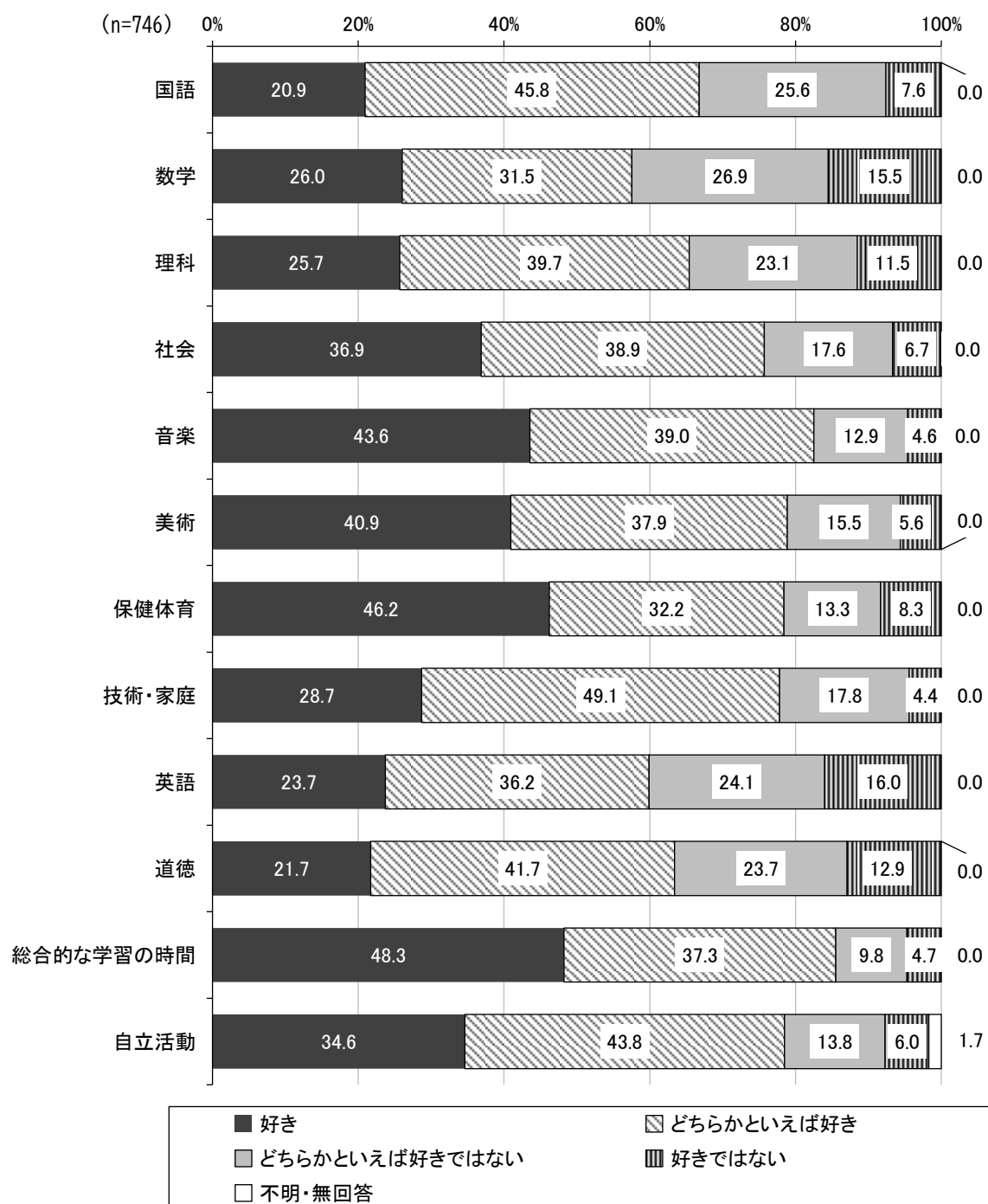
問5 《小学生》次の授業は好きですか。（それぞれあてはまるもの1つ）

小学生の「好き」「どちらかといえば好き」な授業について、「図画工作」が90.8%と最も多く、次いで「理科」が88.2%、「体育」が87.5%と多くなっている。一方で、「国語」「算数」「社会」といった基本的な科目や「道徳」を好きと感じている児童が少ないことが課題であると伺える。



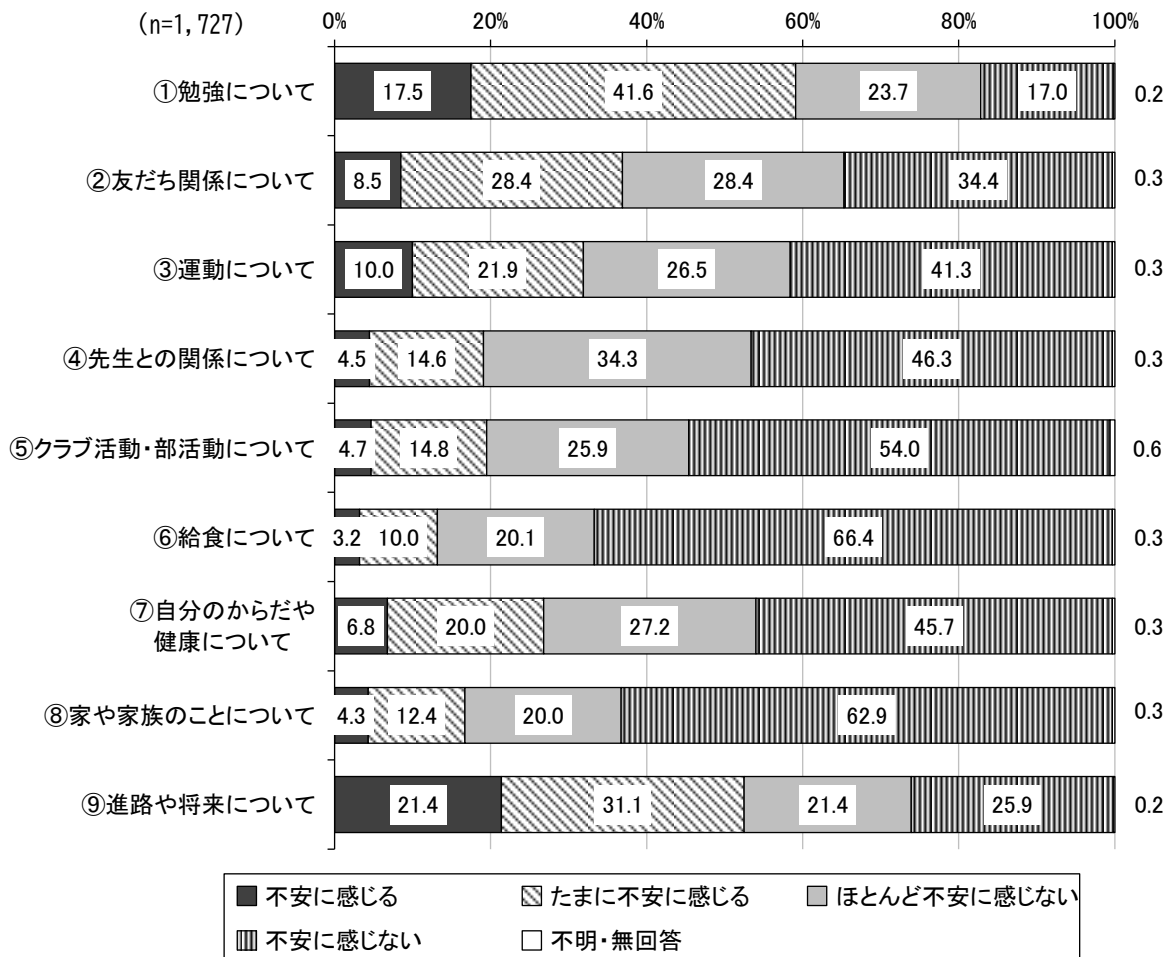
問5 《中学生》次の授業は好きですか。（それぞれあてはまるもの1つ）

中学生の好きな授業では、「総合的な学習の時間」が85.6%と最も多く、次いで「音楽」が82.6%、「美術」が78.8%と多くなっている。一方で、「理科」が好きな割合は小学生と比較し大幅に減少しており、その他の科目においても小学生と比較し減少傾向にあることが伺える。



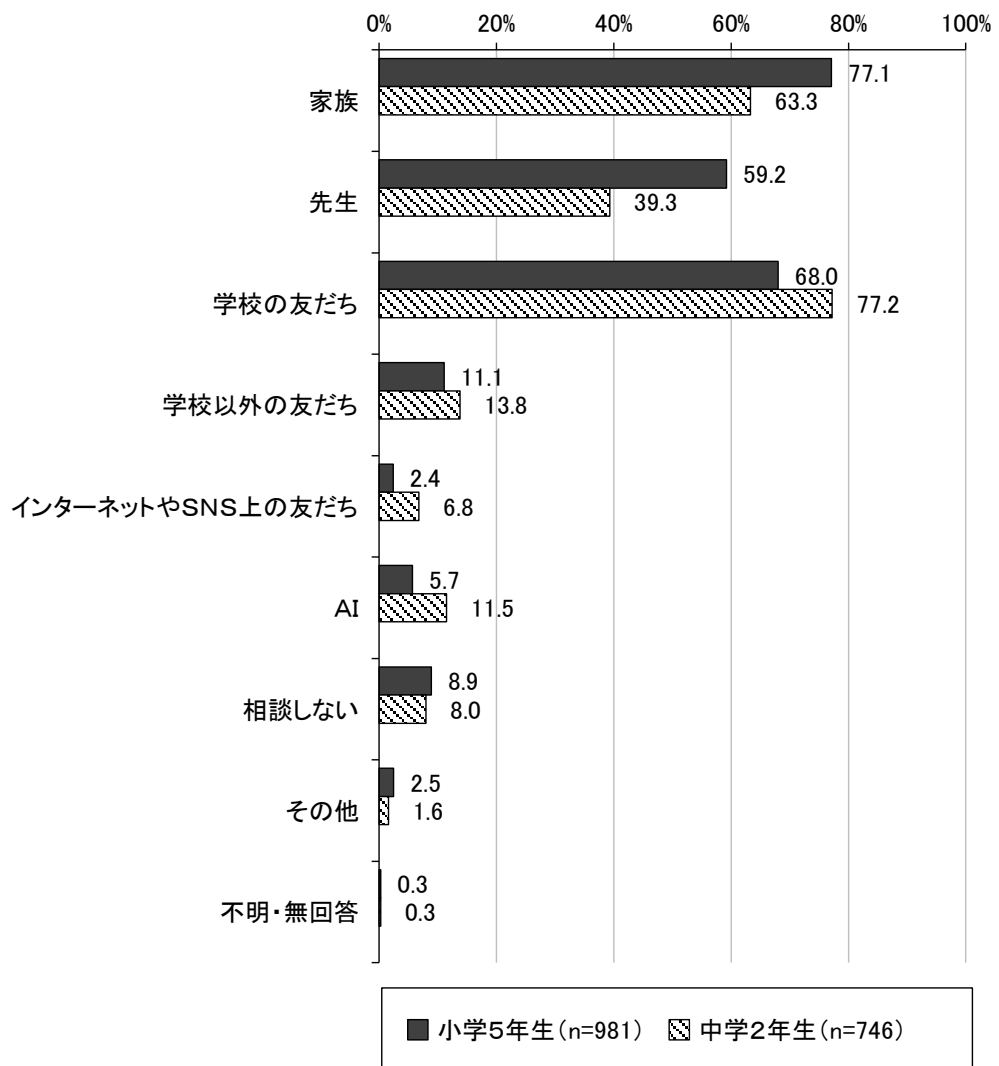
問6 毎日の生活の中で不安に感じることはありますか。①～⑨のそれぞれについて当てはまるものをえらんでください。（それぞれあてはまるもの1つ）

毎日の生活の中で不安に感じることとして、「不安に感じる」「たまに不安を感じる」を合わせた割合では「勉強について」が59.1%と最も多く、次いで「進路や将来について」が52.5%と多くなっている。



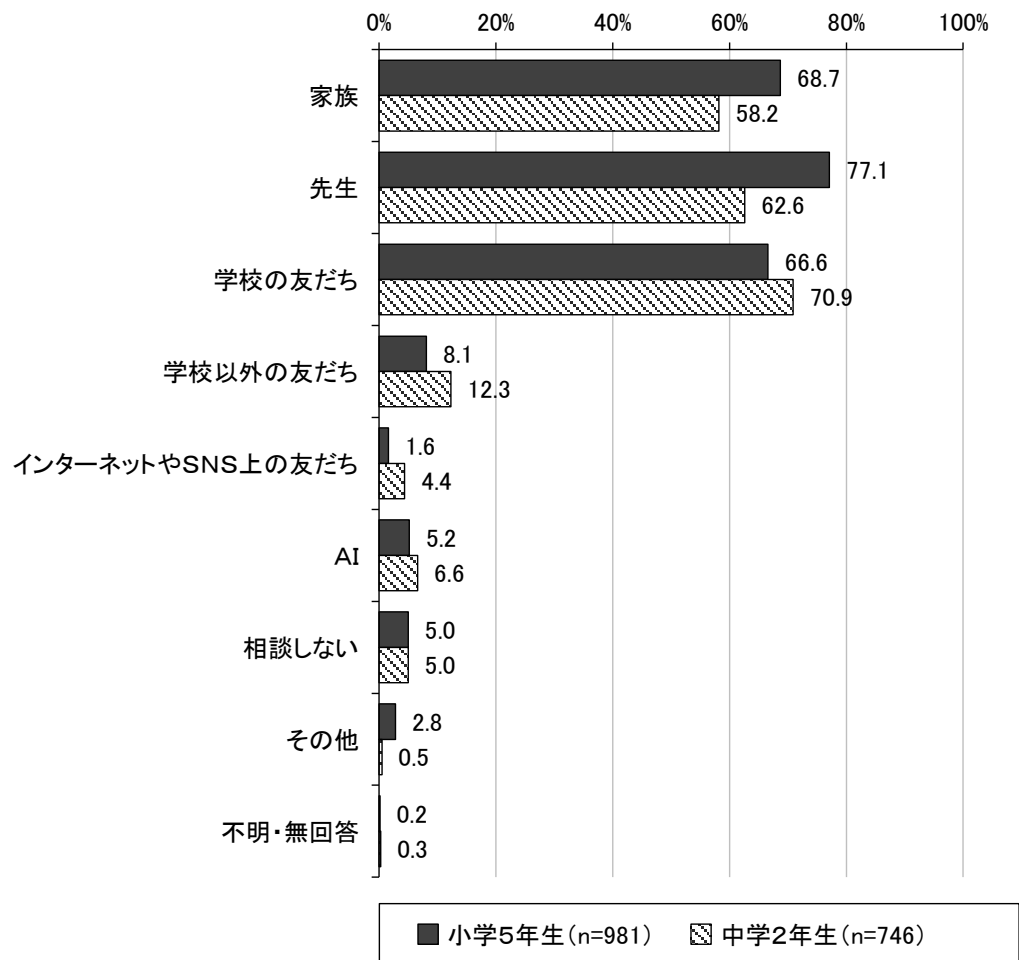
問7 なやみや不安なことがあるとき、だれに相談しますか。(あてはまるもの3つまで)

なやみや不安なことがあるときに相談相手として、小学5年生では「家族」が77.1%と最も多くなっている一方で、中学2年生では「学校の友だち」が77.2%と最も多くなっており、「家族」や「先生」は小学5年生と比較して少なくなっている。



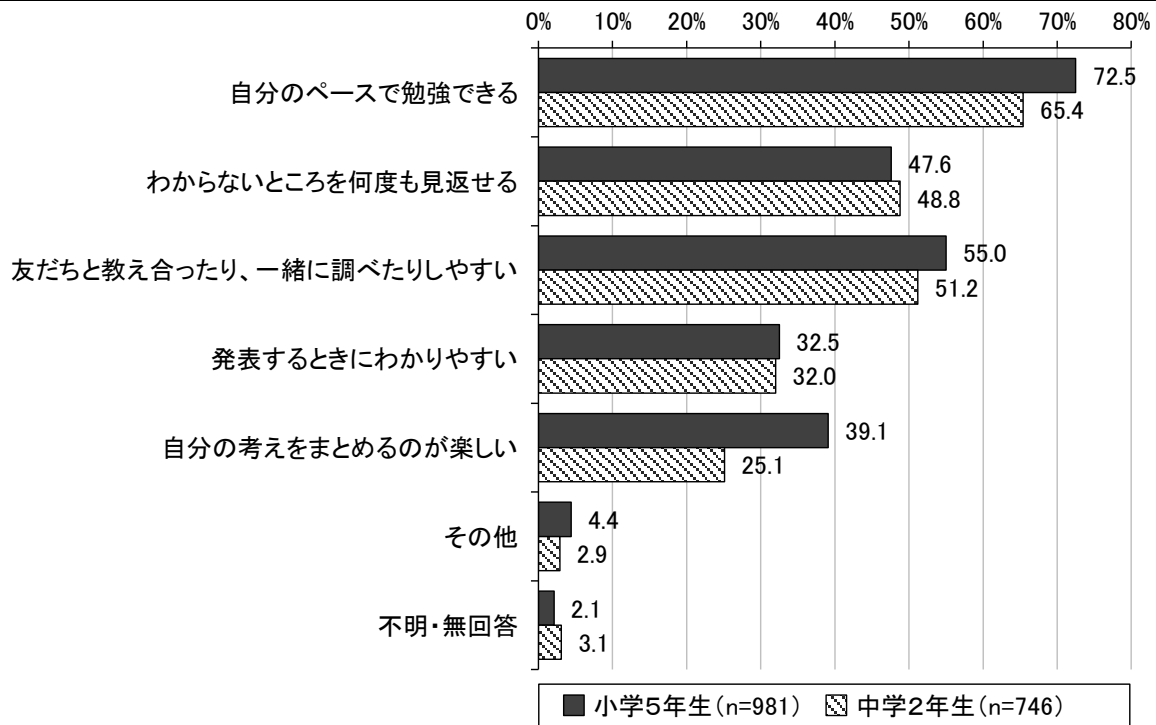
問8 あなたがいじめを受けたときや見たときに、だれに相談しますか。(あてはまるもの3つまで)

いじめを受けたときや見たときに相談相手として、小学5年生では「先生」が77.1%と最も多くなっている一方で、中学2年生では「学校の友だち」が70.9%と最も多くなっており、「家族」や「先生」は小学5年生と比較して10ポイント以上少なくなっている。



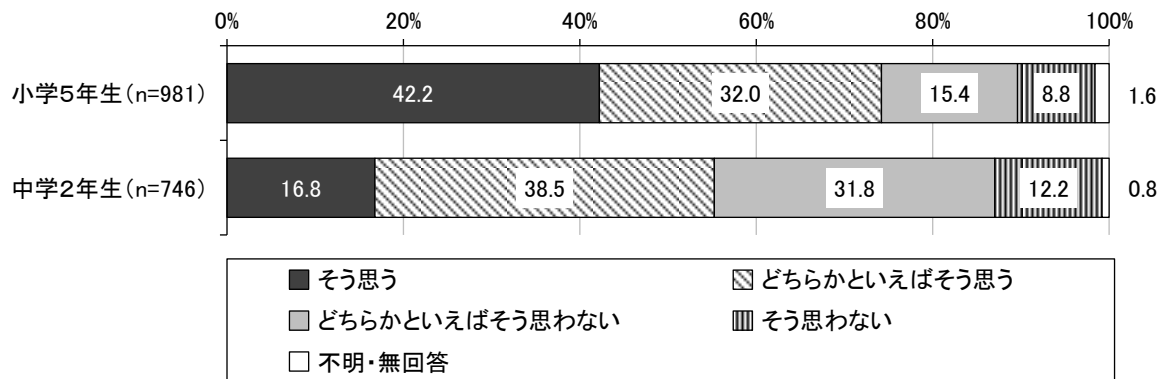
問9 授業でタブレットなどを使って勉強するとき、どんなことがいいなと思いますか。（あてはまるものすべて）

タブレットなどを使った授業の良いことについて、小学5年生・中学2年生のどちらも「自分のペースで勉強できる」ことが最も多くなっている。一方で、「自分の考えをまとめるのが楽しい」という回答は両者で約15ポイントの差が生まれている。



問10 大人になっても三田市に住み続けたいと思いますか。(あてはまるもの1つ)

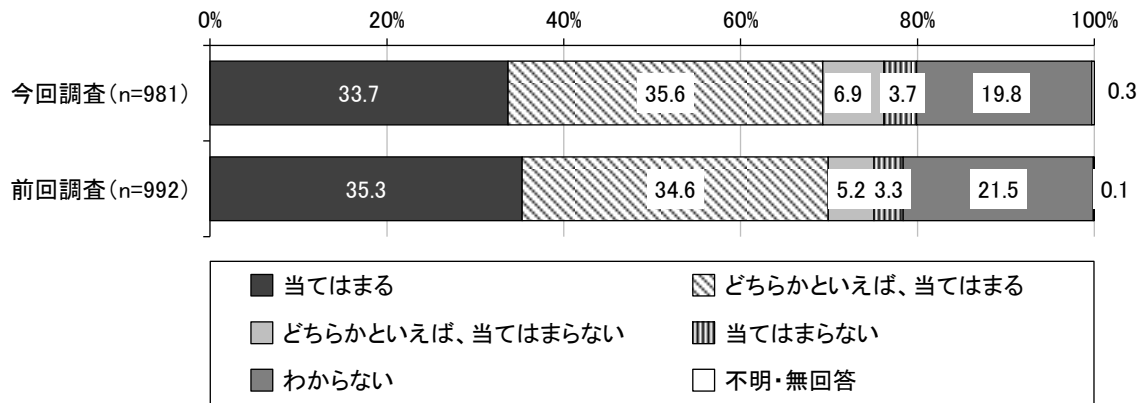
大人になっても三田市に住み続けたいと「思う」「どちらかといえばそう思う」と感じている回答者は、小学5年生では74.2%に対し、中学2年生では55.3%と約20ポイント少なくなっている。



三田市に住み続けたい理由	
(1) 自然環境・地域性	95件
(2) 安心感・治安・安全	33件
(3) 慣れ・愛着・思い出	44件
(4) 人間関係・地域交流	57件
(5) 利便性・住みやすさ	38件
三田市に住み続けたくない・迷う理由	
(1) 都会志向・他地域への興味	149件
(2) 不便さ・施設の不足	24件
(3) 将来の仕事・進路	24件
(4) その他(消極的な理由)	23件

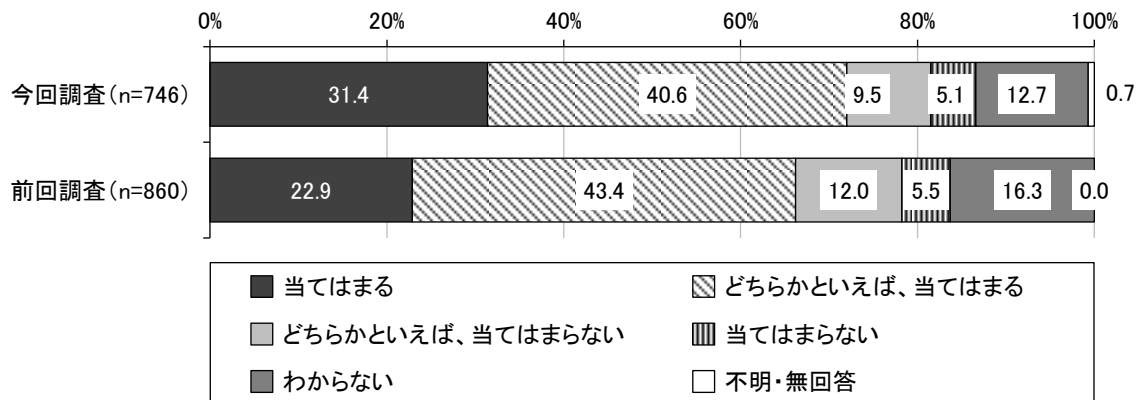
問 11 ①あなたは自分に良いところがあると思いますか？（小学5年生）（あてはまるもの1つ）

自分に良いところがあると「思う」「どちらかといえばそう思う」と感じている回答者は69.3%と、前回調査の69.9%からわずかに減少した。また、「分からない」と感じている回答者が19.8%となっている。



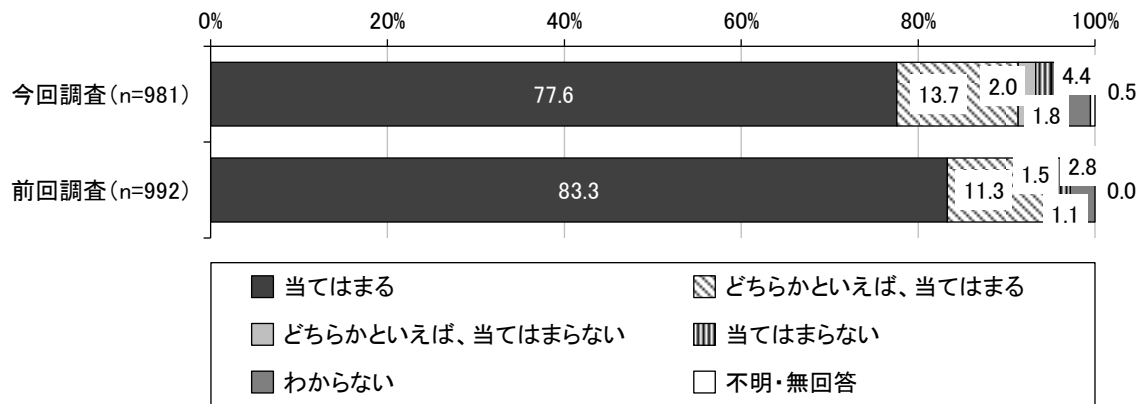
問 11 ①あなたは自分に良いところがあると思いますか？（中学2年生）（あてはまるもの1つ）

自分に良いところがあると「思う」「どちらかといえばそう思う」と感じている回答者は72.0%と、前回調査の66.3%から5.7ポイント増加した。また、「分からない」と感じている回答者が12.7%と小学5年生より少なくなっている。



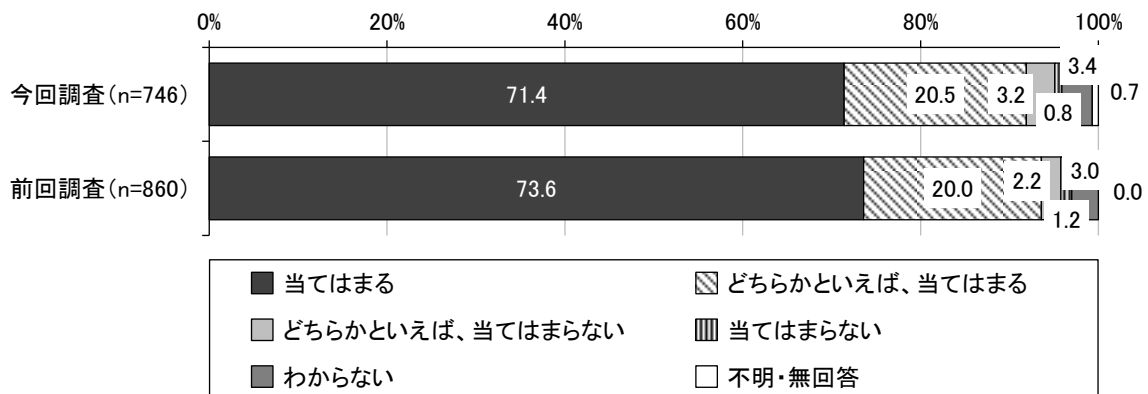
問 11 ②あなたには信頼できる人がいますか（小学5年生）（あてはまるもの1つ）

信頼できる人が「いる」「どちらかといえばいる」と感じている回答者は91.3%と、前回調査の94.6%から3.3ポイント少なくなっている。



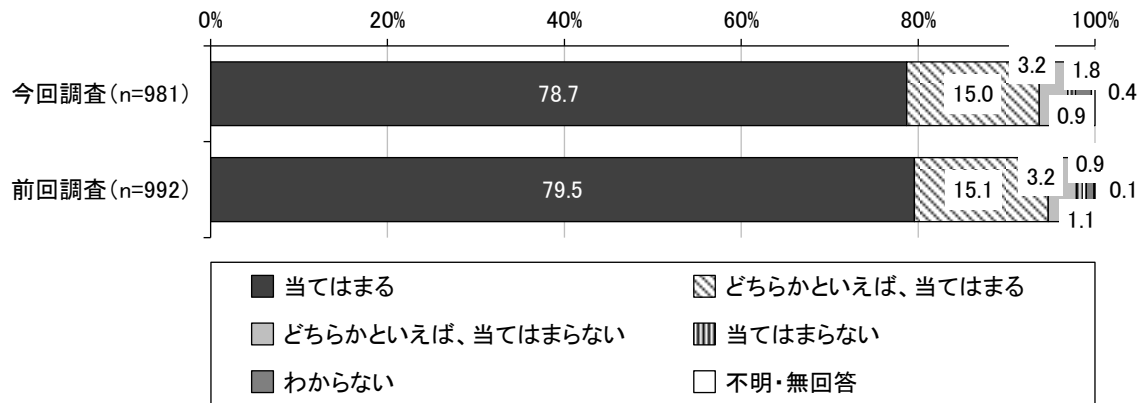
問 11 ②あなたには信頼できる人がいますか（中学2年生）（あてはまるもの1つ）

信頼できる人が「いる」「どちらかといえばいる」と感じている回答者は91.9%と、前回調査の93.6%から1.7ポイント少なくなっている。



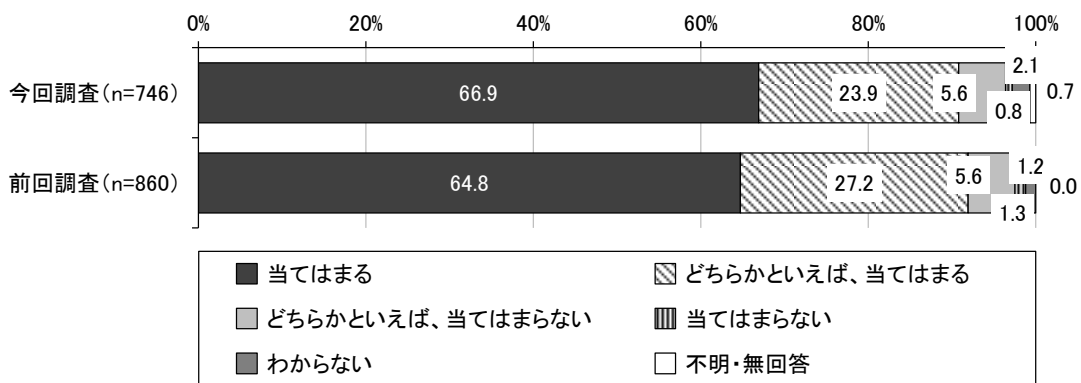
問 11 ③あなたは家族や一緒に暮らしている人とよく話をしますか（小学5年生）
（あてはまるもの1つ）

家族や一緒に暮らしている人と「よく話す」「どちらかといえばよく話す」と感じている回答者は93.7%と、前回調査の94.6%から少なくなっている。



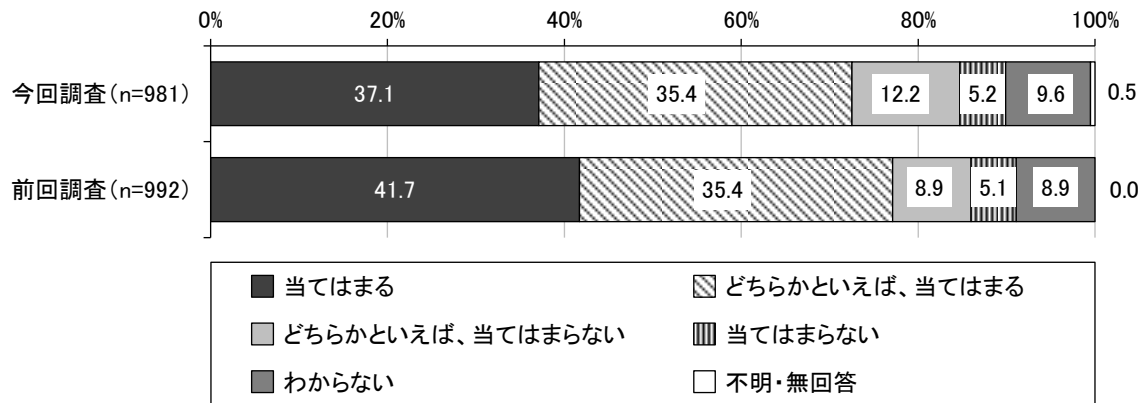
問 11 ③あなたは家族や一緒に暮らしている人とよく話をしますか（中学2年生）
（あてはまるもの1つ）

家族や一緒に暮らしている人と「よく話す」「どちらかといえばよく話す」と感じている回答者は90.8%と、前回調査の92.0%から1.2ポイント多くなっている。



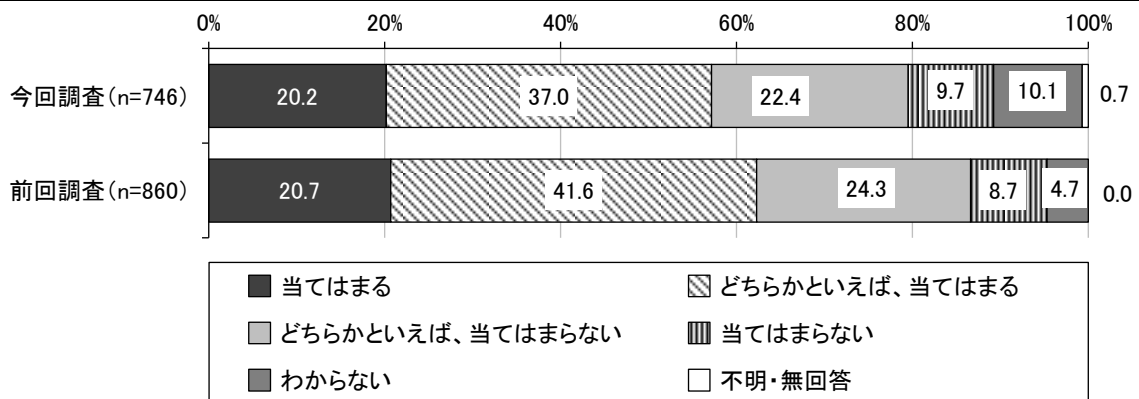
問 11 ④あなたは地域の行事やイベントに参加したいと思いますか（小学5年生）
（あてはまるもの1つ）

地域の行事やイベントに参加したいと「思う」「どちらかといえばそう思う」と感じている回答者は72.5%と、前回調査の77.1%から4.6ポイント少なくなっている。



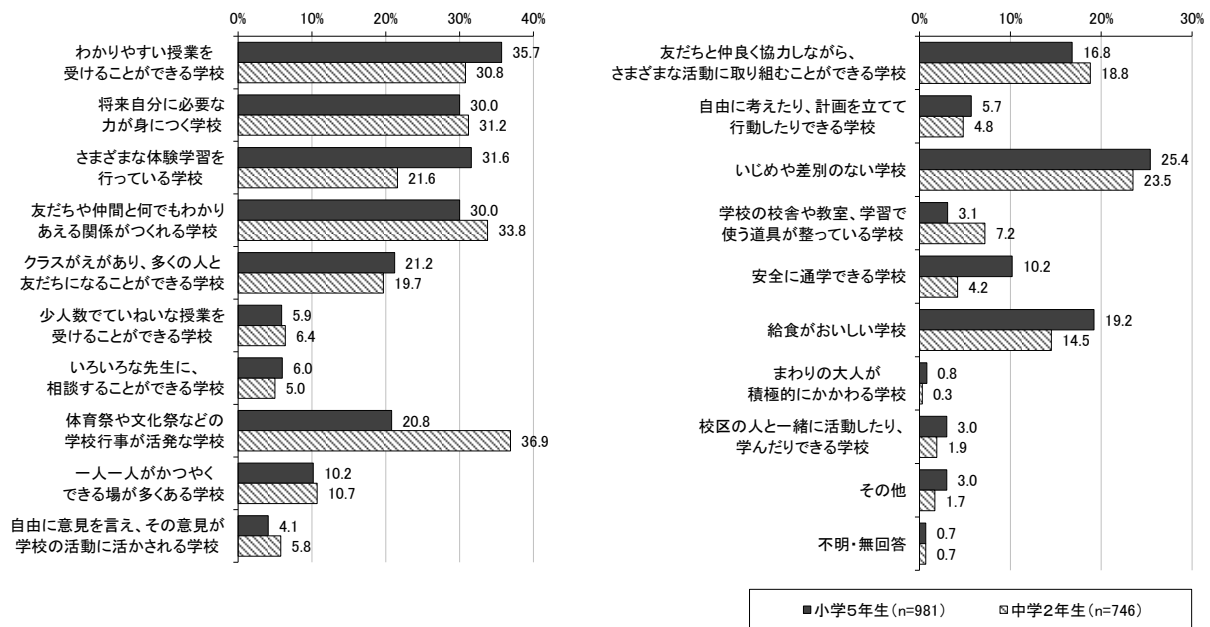
問 11 ④あなたは地域の行事やイベントに参加したいと思いますか（中学2年生）
（あてはまるもの1つ）

地域の行事やイベントに参加したいと「思う」「どちらかといえばそう思う」と感じている回答者は57.2%と、前回調査の62.3%から5.1ポイント少なくなっており、小学5年生と比較すると約15ポイント少なくなっている。



問12 あなたは、どのような学校に魅力（いいな、すてきだなと感じること）を感じますか。（あてはまるもの3つまで）

魅力的に感じる学校として、小学5年生では「わかりやすい授業を受けることができる学校」が35.7%と最も多くなっている。中学2年生では「体育祭や文化祭などの学校行事が活発な学校」が36.9%と最も多く、小学5年生と比較し16.1ポイント多くなっている。



問 13 あなたは、学校の施設や設備で改善すべきだと思うことはありますか。（あてはまるもの3つまで）

学校の施設や設備で改善すべきだと思うことについて、小学5年生・中学2年生のともに「体育館への冷房・暖房の設置」が最も多くなっている。また中学2年生では、「パソコン、タブレットが古い、ネットワークが繋がりにくい」が小学5年生と比較し15.4ポイント多くなっており、日常的に使うことの多い設備の改善を必要としていることが伺える。

